

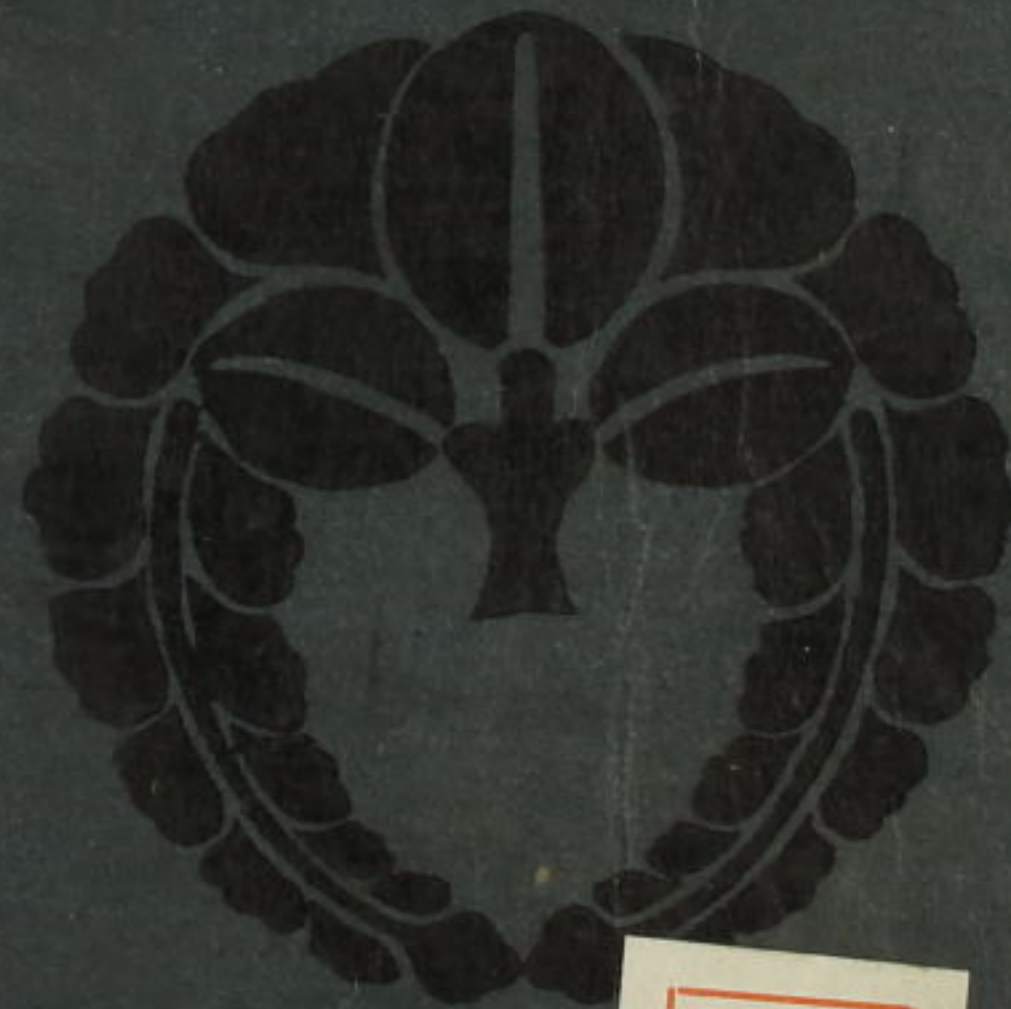


妙見
感應

清正真傳記

初篇

一



~ 13
3333
1



門八 13
號 3333
卷 1

叙

浪華玉榮翁老益壯一飲一斗肉十斤又能

酒間呢談肥後藤侯遺事衆環而聽之唯

恐其中輟也既有慨然嘆者有奮然竦者眉

揚氣憑張拳握腕其心如已提鼓軍門者又

如烈士貞女赴水火不避者乃相厲曰三韓

八道吾唾手取之蒙古窮髮吾拔其毛而膾



大正十年八月廿九日
本大學出版部

清正巴刀篇卷一

其肝豈不亦快乎比二皆然或疑之曰翁所
說者實邪吾盡知之矣其或如構虛鑿空所
謂演義傳奇者邪則吾斯之未能信也而及
其聞之即亦慨歎百聲不知拳之張之腕之
握之余聞之昔侯侍女問夫人曰君侯兩袖
繫金鈴子何也曰汝不知也君侯每與諸將
會語苟及義便爲之感激張拳握腕一身振

動傍人竊指笑之而君侯不之覺也故繫之
鳴則自省夫侯名將也其所爲皆發忠肝義
膽令人薄腸又何爲鼓舞於翁而不能自己
也蓋人已有其性斯有此心乃所謂善也今
夫塗巷兒童之觀雜劇也見梟原構諛則欲
投瓦石碎其首見義經不爲其兄所容則欲
自代訴也而况侯奮於百世之上乎又况翁

善談之乎翁將歸乞余記前言余時建侯碑
其舊里有詩翁又乞之乃書為饁詩曰
曠世英雄出此村感嘆勒石百餘言
帶風霜氣必歷風霜萬歲存

文化壬申秋日 尾張 滄浪主人識



浪速 侃齋峰葦窓書

妙見 清正真傳記初篇摠目錄

一之卷

妙見感夜記

加茂清信自得飛騨源

孝女阿古放鶴養父條

阿古夜漁葬妖怪條

精根泉直魚吉惠負士條

懷義願恩清信斬妖歸條

震勇執之清信不權士條

清正妙見の靈夢を蒙る圖

加茂小治郎幼稚の時獲と試る圖

長柄川夜中鶴翔漁火の圖

関魚信廢疾を悔懐る圖

清見傳記初篇摠目錄

少年阿古子 魁書を送る圖

悪少年阿古子 戯き抛る圖

阿古妖怪 吞る圖

兼吉漁を 報信信よりする圖

信信夜に 妖怪を飼ふ圖

信信夜中に 鱈魚と屠る圖

松波丸九郎 油升り圖

母友道三 美濃を奪て 威を震ふ圖

二之卷

執業震勇道三 敗大軍條

用細間信秀 陸大山空條

講和成親 信長會道三條

信父逞武 清忠保今須條

攘乱天倫 義龍弑父弟條

躍越城邊 信忠奪慈母條

襟固尾陽 信忠生浪心條

舟友道三 桶系山より 出陣の圖

加友信信中 陣突入信康と 敗る圖

信信千秋 紀伊守と 組討の圖

信信病中 警者比呂と 弾る圖

信信夜軍 小回勢を 絞る圖

信信落城 懐て馬を 還る圖

信長偽て 其風放 台湯の圖

加友信忠 陣騎よして 早返の圖

今頃城外 信忠清并勢と 破る圖

奇友義龍 暴悪二弟と 討る圖

信忠母を奪て城中を脱るる圖

三之卷

胎身英勇孕婦得勇爽條

幼児震力救頑童於舟條

信忠胎馬託孤於義叔條

故下一羊好獵陷雙虎條

信忠の妻懐胎して力量生じたる圖

摩訶拘締羅南天竺より到る圖

昇論席で論師を碎伏する圖

虎之助二歳勇力たる圖

虎之助小児を舟より救ひ上るの圖

信忠虎之助を八郎助に託すの圖

昌盛法師神徳を蒙るの圖

本下義吉郎婚札の圖

軍議の席柴田本下争論の圖

小法師勝海船難を以て元人を去るの圖

小巻源を助本治を傳へて討つ

四之卷

降竹中新龍興之雙射條

一盃酒談傾於困家條

築岩信盛勝家田敗滅條

一夜紙城本下弄戲衆條

看破密計先授福葉山條

越後難關陷法橋葉山條

龍興捨奮越標湯治海條

竹中半兵衛龍興を誘て怒と蒙る國

長吉郎化子と交りて竹中に見るの國

重治夜中龍興を誘ふの國

竹中重治國を去りて木下達之國

竹中半兵衛海軍軍法を教ふるの國

柴田勝家須股の岩を陥る國

木下長吉郎須股より濃勢を破るの國

信長より先て木下頼高を燒く國

人精を以て論祖を教ふるの國

堀尾茂助日根野宿中より戦ふの國

茂助怒緒を教へて信長に見るの國

五之卷上

逆徒圖龍興帝城大樹條

得業脱南京奔於近湖條

覺慶得業不々艱難之章

明智光秀拜謁新軍之章

義昭卿より濃勢勅座之章

木下拒明智光秀章

遠る春基欲刺信長章

信長上洛経次合戦之章

松永彈正葬火と以て松明を用る國

三好松永義輝公を弑し奉る國

春日の神官得業より與力せんと馳來る國

義昭卿落魄して西湖の月を見し國

明智光秀朝倉の崩し於て鉄炮を放る國

義昭卿より濃勢勅座の國

光秀更濃より来り新將軍に拜請の旨

遠及在左邊門仍て仍刺とる旨

丁野蓮基寺夜中より信長と龍人との事

人掃子と以て治祖を起る旨

五之卷下

奸盗相見誘老實條

根後化鬼斬元賊條

虎之助得時遇言條

伊左四郎勝頼村回事

加倉虎之助初陣之幸

虎之助薦奉福鴻巾帟事

禪僧入助が家より両舎とる旨

傍周典虎之助を相とる旨

盜賊入郎助が家を又より命とる旨

虎之助元賊を斬る旨

加倉虎之助秀吉より仕る旨

虎之助怪ぬ手綱引の旨

武田勝頼岩村回へ押寄る旨

勝頼守野の城を圍責る旨

羽柴筑前守地道を傳て岩村回へ潜入旨

加倉虎之助初陣座光寺を討旨

以上

初篇惣目録畢

加藤小治郎清信像



擬古短歌一首 葛滿

藤原能絶西跡矣

闘賀乃木之以也

繼繼仁所繼君鴨

加藤彈正左衛門
清忠像



同詠一首

葛滿

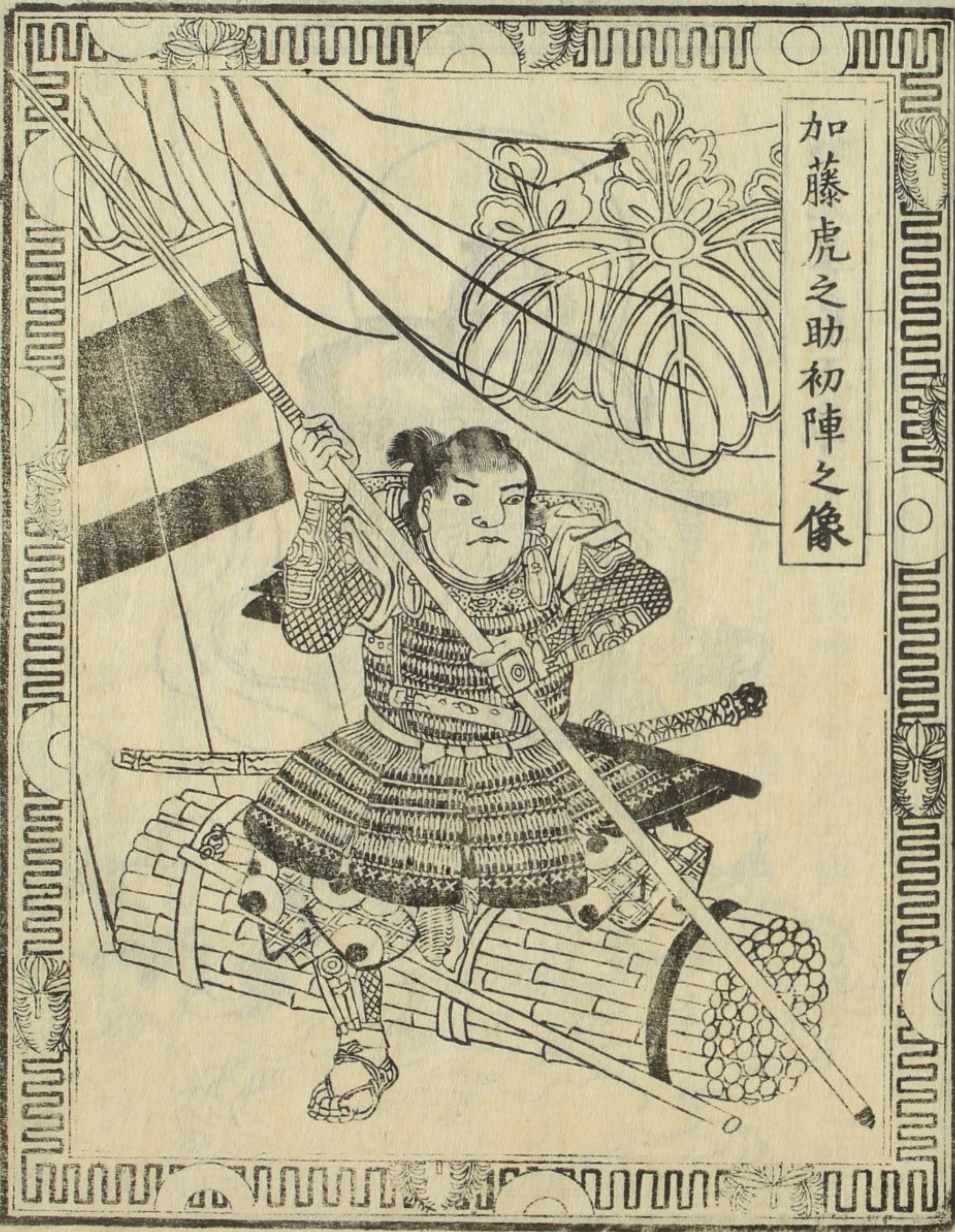
鬪留擬太遲 彌波字

母連互毛 能知乃降

尔以可理底 黎曾淳

為年序 慧氣婁

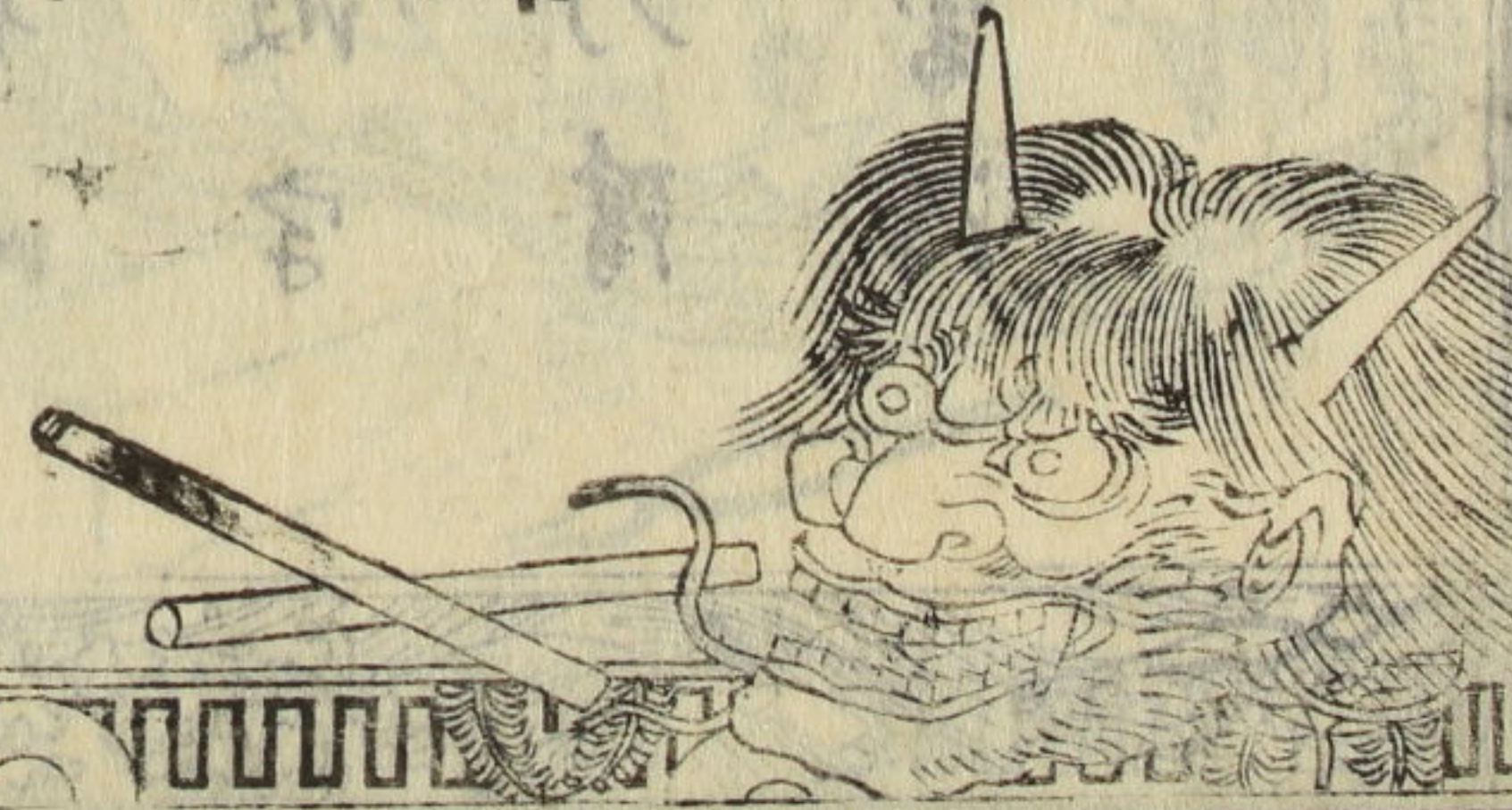
吉田巴 卷一



加藤虎之助初陣之像

清江記 初篇卷一

同詠一首
言騷具韓乃蜘蛛
井爾鳴神之今母
十才蟹猶響可目



清江記 卷一

妙見尊星王像



妙見 清正真傳記發端

四海波靜なる皇風蒼生の豊ふ偃ぬ。戸扉の倚らるのまふく。夜高
ふとほこるとし。成業のころみのが自實に疑ひなき。濟代の洪福我皇國
の史家とに統るるに更なり。漢土諸亦事の衆藉ともふあつて。之に
市肆ふ充滿(最上右の治乱興廢ふつりても。猶眼亦ふ親とごころ。性昔
の英勇忠良の豪傑と肩を結ぶがく。あまうん公廷の恩報わつごや執
せの後傑のうら。一邦に將として區々として英名と天下に施さるりのあり。
ゆゑその徳と扶桑六十八州の天子霜降と者りり。まに故肥後守の清正
朝臣こそ。本朝二尺の童子の父なり。威名を雅林八十州。震旦四百余の地
に裏つ。今も彼國の庶民は社とごごく。かとゆゆめも。其肇は尾張國の
總角と結ぶの黎とごして。豊良を肉ふ後ひ。南海山陽九國の征戦も勇略
を顯へ。終つて一方の將として外域に押わたり。戦功指を屈りて。けるに
つゝ。侯りごより天然の勇氣らつごりども。戦事教を奉の同小進退に

の危急を隠して教回らざる。弄るるも。その回毎に軍陣の中に神変不思議の事と題す。危厄のうちに脱する事と題す。是他の事なり。妙見する星王の加被方。闇に候ふ忠丹が加護し。今一回の事傳と記す。又記すの余に題目旗。妙見する星王の靈験を蒙る。其の事と題して。その首の附録する者。是他の義あり。昔世の豪傑英名の大將と云ふも。獨り戦功を軸とする事。神祇の加護。佛菩薩の冥靈。義経曹の中。の黒衣。楠正成の普門品。大塔法親王の老松若松の令條。周の危なきと懐き。記傳に載て明着に。抑候の軍中に妙法首題の旌旗と用ひら。尋ふその初右大臣平信長公より出たり。此君。上總介とせ。松東大將軍義昭公とあり。尾張國より興り。三好岩成。筆と誅せん。上洛は遠將軍と共に。條本國寺に座を。首に對して宣く。今の時海内凡の。割。蜂の如き。起り。二月の間に平ら

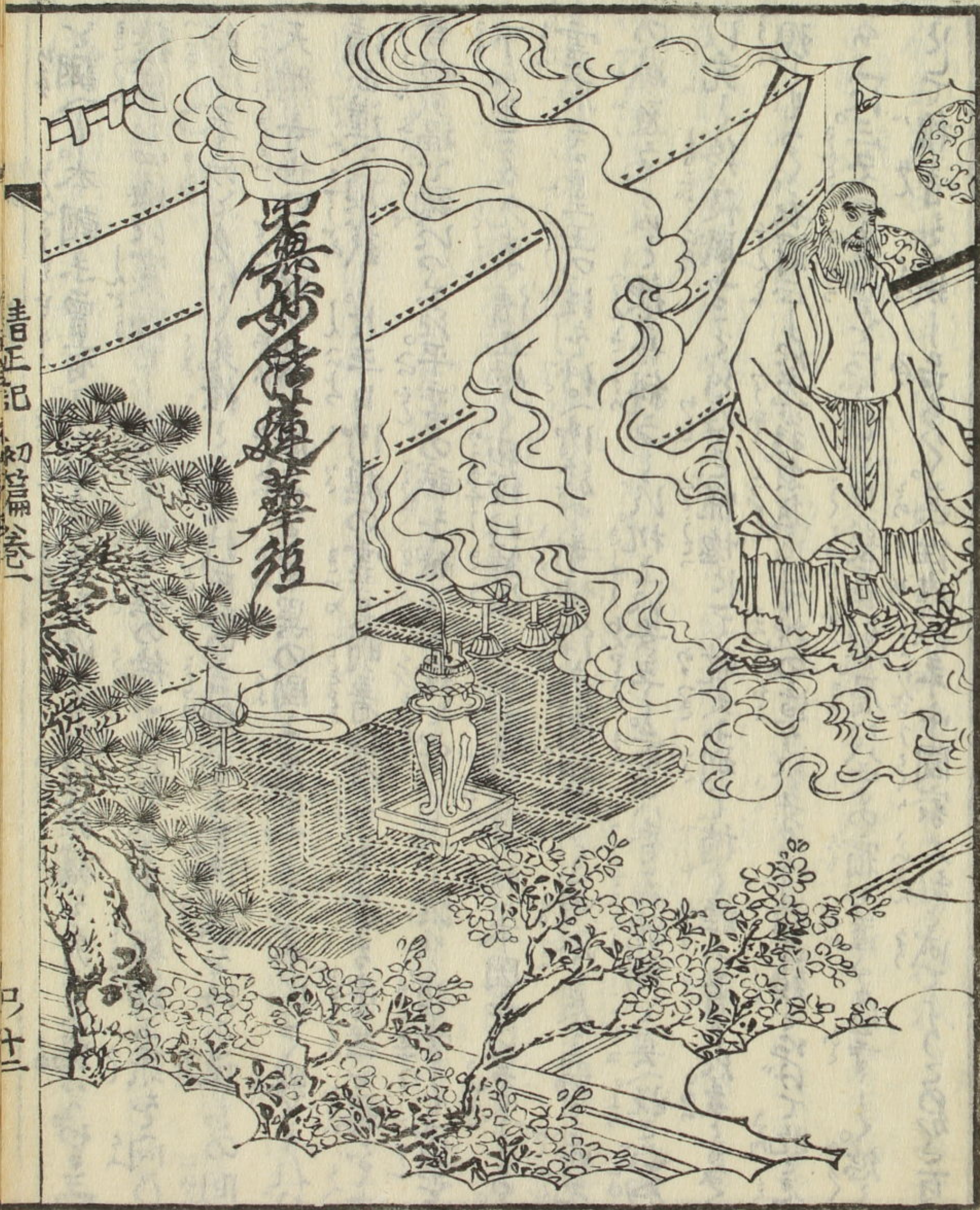
かる朝。蒼民塗炭の。墜入信長斯る戦國の世。二隅に主。通義兵と揚て旗を帝都。翻。天晴。六。上。天下。主。下。生。民。の。天。下。に。義。端。を。奮。人。と。然。才。敏。や。方。志。と。有。人。と。憑。と。唯。佛。天。の。應。統。何。法。と。天下。を。平。の。功。を。四。海。に。輝。貫。主。權。で。袖。接。合。せ。諸。法。の。功。德。深。重。なり。と。利益。の。明。著。と。妙。見。する。星。王。の。法。如。の。首。實。の。實。對。を。宣。は。し。國。柄。を。振。らん。と。人。修。と。有。人。と。有。人。と。星。王。の。容。に。黒。い。て。憤。怒。の。面。に。惡。魔。降。伏。の。利。劍。を。推。へ。黒。い。北。方。水。の。武。の。形。を。表。し。平。生。か。命。の。主。宰。天。に。在。て。北。斗。星。道。家。は。是。を。靈。府。を。神。と。号。く。北。斗。一。座。して。其。數。七。の。貪。狼。巨。文。祿。存。文。曲。廉。貞。武。曲。破。軍。是。ち。軍。陣。家。の。破。軍。星。も。大。星。も。稱。一。層。教。家。の。月。建。十二。直。日。北。斗。運。行。の。名。より。中。の。戦。場。小。隱。是。に。向。て。敗。是。と。後。背。子。願。其。威。力。を。借。て。我。ふ。と。勝。利。の。軍。中。の。旗。幟。に。於。る。堅

此乳の教七房。横よりの教廿八なり。七つはとら北斗の教。遠廿八
 角。九氏。房心。尾箕。斗牛。女虚。危室。壁圭。婁胃。昂畢。觜
 參。井鬼。柳星。張翼。軫等の廿八宿に象ぶるとかや。扱妙見星王の
 法と言者。この法を修らば。星神咒陀羅尼なり。然るも唯妙法の
 を以て修し。すふ如く。其故。三世の諸佛出世の懐。妙法を
 説く人。為り。是に依る法。華經。一切諸經の最勝。諸法の最第一なり。
 經曰。唯一乘法。無二亦無三。と説き。一部八卷廿八品。金句。首題
 含藏。天龍夜叉。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等。以て。信授奉持せ
 ざる。つゝ。神旗を四海に翻す。勝利と一天の示さる。此は。起る
 る。信長と演告せ。信長。喜色満面。充能。う。所増
 の教。戒我心。符令。信長。妙経に頭を傾る。教奉。偈仰心。膽に
 録。たり。自今。以後。余軍中。北旗。幟。北斗。星王。と。欽。清。妙法。蓮華の
 首題。と書し。真先に。押。佛。天。加。護。の。神。力。に。丹。心。の。忠。累。を。巡。し。四。海。清。

の功成就。上。万。乘。の。教。心。を。安。ん。下。黎。民。倒。懸。の。心。を。救。ふ。と。忽
 寺中の僧侶。小令。妙見。星王の神咒。を。修。せ。り。廿。四。万。八。千。篇。と。此
 乳。と。く。二。十。五。房。一。つ。の。乳。魚。に。神。咒。七。十。篇。と。安。置。せ。り。首。題。の。文字。其。頂
 能。書。の。面。え。し。ゆ。と。近。衛。信。元。の。殿。下。も。法。欽。以。斜。る。以。四。海。の
 大。乱。を。定。め。主。上。の。慶。慶。を。安。め。万。民。悩。亂。の。苦。を。救。え。り。に。惟。次。推。遷。せ
 る。り。と。亦。く。古。日。良。辰。を。撰。り。神。の。忌。せ。り。勢。多。し。や。そ。神。を。以。し
 南。無。妙。法。蓮。華。經。の。七。字。を。文。と。し。て。又。筆。力。精。心。龍。蛇。の。勢。ひ。り。り。と。後
 歎。せ。り。と。き。信。長。公。は。海。を。か。き。り。り。と。是。より。旌。旗。東。西。に。展。張。し。向。不
 勝利。を。と。り。て。七。徳。の。余。風。小。佛。神。冥。助。の。力。と。如。へ。五。歳。東。海。と。し。り
 して。三。斗。北。越。旗。と。捲。て。降。り。威。徳。奉。り。禪。き。終。り。右。近。衛。大。将。に。補。せ。り。
 右。大。将。小。進。り。武。徳。神。力。二。つ。を。具。り。四。海。活。平。の。時。を。き。り。り。と。云。は。り。
 徑。王。の。利益。も。頭。然。て。是。頭。同。旗。の。權。輿。なり。され。應。仁。文明。の。乱。り
 以。降。諸。侯。大。を。吞。小。と。并。せ。漢。土。戰。國。の。時。を。齊。く。互。に。猛。威。を。逞。や。山。陽。

南海九州の地いさぐ障緒をまじりて。天正四年十一月豊臣秀吉公其以の
 羽柴汎前守とせしむ。奏聞して遂に中國の標類とほまひを始と播磨別
 所長治備前の淳田直家と謀り。倭に中國法西悉く切靡さんと。信長を
 首魁の旗を秀吉公に賜り宣ひたる。播州以西の諸侯ももろに猛烈と憑
 敢て王化に従ふ。此剛毅と性いしぐめ。獨り汝より外ははとまらう。天正五年
 中國の標類とて。次は信長帝都義主の最初なり。向ふ亦大津津系せし。先
 たる。つるの旗の稜威に因てわり。中國出軍の首途を祝して唯今汝が標
 るどとつりけし。秀吉僅く頂戴し。直に旗旗と真先。押立播州。奔向
 り。別所淳田と謀り。攻城野戰敢く利らば。いさぐ。備前播磨と
 りとより。岡伯雲石。郷音の如くは。天正五年山崎の接戦。明智光秀を
 誅し。いさぐ。それより勢い日に加る。官途入臣の極位に昇騰し。終小関。自補
 せし。豊臣の姓を賜ひ。命途乗運の時と。いさぐ。つる。押旗の。吳驗
 たり。四海一統の後。秀吉公帝都聚樂の殿を經營し。つる。時。閑暇に。遣

左右の人々小對ひ宣ひたる。我早賤の家より起り。僅に三十年の間。小海内
 の亂を定む。と。いさぐ。熱之間。二世の間。氏親と。いさぐ。百歳の上。壽を。傳つ。者。甚
 希なり。然。中。日本。六十。余。州。の。一。小。島。區。として。この。一。隅。と。より。老。死。せ。ん
 事。い。と。い。意。を。た。態。と。い。さ。ぐ。我。母。公。妊。孕。し。あ。り。時。日。輪。懷。ふ。入。と。ま。ま。と。ま。ま
 を。生。り。後。六。日。の。照。臨。と。い。さ。ぐ。み。ま。ぐ。我。威。名。と。知。れ。若。又。冷。に。後。の。諸。國。に
 ら。一。劍。の。霜。と。その。天。に。兩。ふ。り。中華の。青。史。に。其。名。を。書。記。せ。り。憶。北。乃
 結。り。傳。へ。る。い。さ。ぐ。ま。ま。付。ま。い。一。番。に。朝鮮。を。誅。伐。と。い。さ。ぐ。彼。國。に。古。我。の
 屬。國。たり。いさぐ。中。古。に。宋。朝。貢。を。絶。し。通。信。使。を。い。さ。ぐ。試。は。し。の。罪。は
 向。の。師。を。記。朝鮮。を。い。さ。ぐ。續。いて。大明。を。攻。入。と。い。さ。ぐ。威。ま。の。い。さ。ぐ。作。出。さ。ま
 ける。と。い。さ。ぐ。此。敵。の。生。質。に。て。徒。最。初。か。り。と。め。の。め。く。聞。え。た。る。の。と。い。さ。ぐ。終。つ。て。遂
 ら。ま。い。と。い。さ。ぐ。い。さ。ぐ。犇。と。い。さ。ぐ。評。を。一。決。し。文。祿。元。年。四。月。より。忽。朝鮮。の。役。起
 り。ぬ。と。い。さ。ぐ。渡。海。の。軍。冊。定。ま。り。加。藤。肥。後。守。清。正。を。先。鋒。と。い。さ。ぐ。師。を。出。さ。る。時。
 妙。法。の。旗。を。取。て。清。正。朝。臣。に。向。せ。り。昔。信。長。公。諸。國。討。討。の。最。初。の。旗



清正記 初編 卷一

四十二



肥後守清正
 好見る星王の
 霊夢を蒙る圖

清正記 初編 卷一

四十二

と翻へ。本朝未曾有の乱の半を治りし後、旌旗を秀吉に賜り、ついで
稜威を四海に震動せしむるに、今も朝鮮の罪を討つ
師を奉汝より、先鋒とす。二代成功の吉例なれ。汝に旗を授け、汝に
天晴奇世の戦功を顕し、威名を垂異の國に惠むべし。と、ちかく賜ふに
清正謹で頂戴し、片平日、汝の靈、冥明着し、心を承る。かゝる重器を賜ふ上
君の威福を頼む。平重の職を献る。と、誓ふ。と、領事して、清正と
下らざる。元来、清正、始く、妙経に帰依し、京都在昔の時の本園寺に参入し、
靈府を、皇王の法を、清旗の奇持、洋の圃、知せし。唯、今、是を賜ふ。妙見
の威、愈々、と、欽喜、斜う、机の上、安坐し、香を、燃焼、と、具へ、收む。胸
に、先く、終夜、眠り、た、忘、し、慌惚、として、曉、天、お、別、と、捕、く、睡、み、着、る。忽、ち、も、ま
現、も、う、衣、冠、正、し、た、老、翁、忽、然、として、枕、の、邊、に、坐、り、清、正、頭、と、ら、び、て、吃、と、見
あ、は、し、三、冬、の、素、雪、と、な、む、く、白、髮、長、髯、眉、ハ、八字、の、霜、と、置、る。清、正、一、く、悠、々、
として、推、音、を、發、し、吾、多、く、其、往、應、仁、年、中、國、家、大、乱、と、成、て、よ、う、この、か、ご、百

廿余年、黎民水火の中に陥つる如く、扶桑神國とす。諸の神祇も、是と稱ふ
み、能と正天、始く、恤、と、垂、上、天、の、神、將、と、降、り、て、四、海、の、乱、を、定、め、民、の、悩、亂、と
救、す、その、人、は、是、豊、臣、國、自、なり。汝、も、ま、神、將、羽、野、異、の、皇、神、か、ら、少、少、に、討、つ、る、事
欽、臣、即、今、朝鮮、の、役、起、る、と、い、彼、國、か、新、羅、百、濟、高、麗、の、三、韓、と、い、い、一、と、云
神、功、自、后、の、ら、に、征、せ、し、き、吾、本、邦、の、属、國、と、成、世、々、朝、貢、を、奉、り、臣、と、稱、し、て
は、す、の、ら、の、久、かり、中、古、より、後、王、化、お、背、き、貢、物、を、怠、り、則、ち、後、世、に、
の、御、宇、建、治、四、年、元、朝、の、異、賊、お、合、師、し、九、州、の、地、を、犯、し、ま、其、國、を、平、定、し、
き、ら、故、に、國、王、を、夫、と、奉、者、後、に、超、過、と、い、は、し、く、日、本、國、中、の、諸、神、祇、怒、り、
と、は、し、多、し、國、お、豊、臣、臣、秀、吉、の、武、畧、を、驅、り、其、罪、を、責、め、し、示、り、は、今、一
方、の、大、將、と、し、て、首、題、の、御、旗、を、先、と、進、む、風、の、草、木、に、偃、より、も、連、ま
ら、ん、請、ら、く、汝、殺、戮、を、せ、し、む、と、さ、る、と、わ、く、國、民、を、損、い、傷、み、あ、と、か、た、と、さ、し、
戦、功、も、亦、も、さ、し、は、て、その、名、中、國、お、振、へ、し、は、れ、も、彼、國、お、於、て、合、然、救、平、
と、征、つ、る、間、危、急、の、難、お、臨、こ、と、有、つ、べ、し、是、天、の、數、多、り、然、と、い、は、し、忠、を、厚、く

仁慈の志一源きとあり。信教の徳も感應一自然と危殆の難と脱き安
地ふもつらつらんと努めて忠勤みこころをいふ妙法の神旗ふも
諸軍も護とく一わきこれ妙見変作の化身なりと告ぐとむとく五重
の鼓耳に響きき急ぎ賞けり。清正大に教を眼とひき見り。不燃火
猶燈然とかもき。何となく異響の薫ひ鄭都して廳中に満りてく
靈府も日王。日王巴信教の志は憐きとあり。かゝる靈告を蒙ると見
つり。よく神旗の威徳を教ひ威涙膽ふ銘一々も一神旗を取てれ
頂き是より側をいふに校威を崇そせし斯く文禄元年五月。既に
朝鮮國に渡海し神旗を真先お押え向ふところ城と墜入朝鮮王の王子
を虜と一進んで功をまことつらぬく妙見も日王の示現の告ふはを
毫髪も民とつらぬを彼まの民小西浮田を諸將の向ふとく怒き慄き
山林に遁匿す。清正の向ふと聞とれい酒食と献して争ひ降す他の諸侯を
糧草にけしむとく。清正の軍中の兵糧をいふ。諸軍肌も墜とるん

尊日星王の灵瑞あり。別して利益彰るる。朝鮮王城の東北より女直國と云
地なり。此れは王城と云と大約は七八日路を隔り。清正諸大將別す。兵勢僅
に五千人を率し。深く堀を攻め入る時。とく北地のさしにて霜雪早く降り。又穀
豊ふ登りば草の地も長し。曠たる廣野を以て有て。何れも十里廿里ふ及べ
る。彼國都もゆる咽喉に當り九二日路の間の水も荒原なり。地國乃人
也。多と超て國都に入るとる者。桶ふ水と野へ脊負行る。半途に於て水
に渴るとつら。又馬ふ水と負せし進んとす。れば滿地草滋きゆ人のさしにて
く。往來のふえり。一條も通らざる。還道る。かゝるに馬の教もき。恐ま
入の能も。若過る。怒り時。忙然して方角を失ひ。数日とかして分た。入
水終ふまで渴死するの教も。清正果して此悪ふ。未だの。一の時。も
四月下旬滿地草長し。その滋きと。まむり尺寸も。とく。不。譯士五島次郎
とつら。の。御導として。曠野ふ。陰んで行先を伺ひ。け。女直國都城の
咽喉に千里郊野の地なり。此と超り。の。よろしく水を貯くと。ぬ。る。と。を

叢莽の中に悉く多く渴死せしむる。水の用意をして入せしむる。さしとも清軍中の水桶を以て如何して之を難不と執りあり。清正も亦笑ひ屈竟のりのことあり。これより塩ふく。山林水澤あり。竹木は見え。いよいよ見ざるも多く。中にも竹の林不みはし。圍り二尺有餘ある。其の竹も枝葉の模様我國の竹と異なる。韓土の葭と同一のものを。天のあつる水を以て軍卒も速に林を圍りて。長八九尺に伐り節は衝て水を貯へし。土人の野をやる時。水に渴とす。竹を以て之を以て。精心快勞を以て。我兵五子余騎。戦馬数百疋。上りて。十分の水器を肩に軍卒も。脊負。西風の起ると。得最し。以て火をかけ。數子箇を以て。燒立る。假令百里の曠原。一兩日。程ふす。竹も。踐み千里一境の地と爲す。その時我兵煙を逐て。駈入る。都下の男女。踴躍せん。その弊小乘て。都城を屠り。落人へ。電上の塵を拂ふ。易かり。人猶も。此國の王世留登。宇須。のり。の。蟬夷地の人の地を奪て。

王号と潜称し。部下に属する夷も。多く。蟬夷人に。韃靼の夫賊加り。異類異形の癖の。弓にまゆ。射りて。毒箭を放ち。百發百中。手に後つ。射落さる。と。兩地の夫賊。知る。足に。屨を着。赤足。山岸。絶嶮。平地を走る。以て。齊く。草を踏。叢莽を。飛禽。猛獸も。是に。及ぶ。と。聞る。今。郊野に。煙を。上る。地。里。妻。賊軍も。致る。波。日。勢。を。よ。せ。り。と。早。は。け。奔。と。潜り。に。出。合。火。と。踏。煙。を。凌。び。四。方。より。圍。む。渠。は。多。年。の。案。内。者。我兵。地利。を。圍。き。以。途。を。閉。り。て。敗。走。せん。か。り。難。し。わ。是。熟。く。必。勝。の。利。を。考。る。に。夫。賊。郊。の。地。は。憑。我。兵。深。く。壘。小。隘。に。は。安。閑。と。く。有。ん。と。ころ。へ。の。莽。谷。の。地。を。り。夜。中。に。都。城。を。襲。ひ。ま。は。我。具。を。盡。し。眼。も。く。逃。崩。す。不。定。り。その。時。城。中。に。突。て。入。世。留。登。宇。須。を。捕。登。し。渠。と。い。渡。す。も。その。妻。子。眷。族。を。虜。と。る。こ。し。を。人。質。と。て。賊。兵。を。招。き。よ。の。平均。眼。と。す。い。く。の。勇。士。等。い。よ。と。み。ま。は。飯。田。森。が。

紀田奇夜鬼神とも欺く英勇と二同に小躍し。抑むと同トまき竹と伐
 水釜を作て五千の軍勢。五日むかひのたて野へ走く馬ふどり付け。仕度する軍平
 と探るも毎ふ鎌とりし。真先ふそ。長草と折せ。從軍その後へ。必ま進
 行らるる。ぬい。碎る。三國の古へ。鄭艾。禮會。蜀の国。おせり。入。陰平。七百里の
 山中とわりたりたるも。斯や。わん。と見ぬ。世。昔も。思。れ。け。斯。清。正。草。以
 前。倒。一。條。の。道。は。少。き。東。に。陰。三。百。と。かり。と。ま。り。の。中。滋。き。と。行。に。後
 ひ。と。と。く。重。な。ん。二。寸。の。地。も。透。と。ころ。す。計。三。丈。計。の。茅。茨。鬼。萩。竹。莖
 ふ。と。く。伸。て。恰。も。二。年。竹。小。髣。髴。と。前。の。軍。率。精。心。と。励。か。ら。う。へ
 前。と。と。も。い。も。半。路。の。地。も。つ。い。に。ぶ。ぐ。く。堂。の。内。疼。腕。麻。き。全。身
 泥。の。う。く。に。勞。き。い。に。ぶ。ぐ。く。倒。き。と。息。ん。と。と。と。と。勇。氣。の。草。茎。を。励。ま。し
 汝。等。い。ら。ま。き。い。か。と。勤。めて。難。ら。ら。軍。中。水。も。乏。しく。宿。ま。く。貯。へ。ら。は。ら。い。と。
 大。將。軍。と。し。め。し。て。諸。軍。渴。死。ふ。向。て。と。ま。り。道。を。ひ。の。と。驅。ま。る。竹。前
 の。軍。率。大。一。奔。ふ。叫。び。尋。常。の。州。り。せ。日。晝。夜。を。わ。ら。は。ら。む。も。争。ふ。勞。し

中。が。た。前。の。日。に。ら。く。前。入。る。地。の。草。莖。柔。れ。て。快。勞。う。て。も。ま。り。此。今
 深。く。前。入。ま。ら。う。い。草。莖。剛。く。長。き。と。斯。の。と。く。う。り。の。時。僅。か。入。る。の。地。も。容
 易。に。前。梯。い。難。き。と。入。前。抗。と。り。て。劍。の。で。く。も。と。突。陣。と。傷。傷。傷。傷。前。と。別。ら
 る。い。も。す。歩。も。と。と。か。く。い。と。前。鎌。を。地。に。投。棄。伏。倒。る。と。の。ち。う。ま。進。進。死
 り。て。見。え。い。ら。諸。軍。何。も。も。屈。し。忙。も。果。る。折。る。と。ら。も。東。の。方。刺。棘
 満。ち。る。肆。の。内。一。同。に。吶。喊。起。り。黑。煙。天。に。浮。り。千。里。の。郊。野。と。く。く。火。と。燄
 紅。火。と。地。と。包。み。乱。煙。の。中。得。も。ま。ら。ぬ。美。賊。の。旗。風。お。籠。り。團。と。重。き。と。鐵。桶。の。を。
 是。賊。主。世。留。登。宇。須。が。兵。り。既。に。清。正。長。州。と。別。と。い。道。を。ひ。ゆ。と。む。は
 細。策。還。と。告。り。う。世。留。登。宇。須。大。き。に。飲。ひ。飲。兵。糧。に。入。て。ま。地。利。と。識。ら。は
 此。野。の。ち。い。じ。と。深。く。入。り。随。ひ。よ。く。周。密。は。て。菱。剛。く。河。ま。の。幸。と。別。は
 て。路。は。開。く。ま。倭。兵。深。く。も。と。なる。亦。と。火。を。放。塵。死。ま。し。と。命。知。と。の。荒。さ
 一。万。人。を。引。率。し。真。平。地。に。中。よ。せ。東。北。南。の。三。方。より。奔。り。く。火。と。放。く。燒。立。る
 その日。東。風。殊。ふ。別。く。味。方。大。き。に。踏。き。ま。と。い。は。して。道。ま。ん。と。の。舞。脚。の

踏を忘き人馬互に踏し。日ごろ鬼神をも物の屑と為さ。紀田孫孫林
 大氣を交す。班鳩諸の尖士も車輪のこく飛来る尖火は然ら眼をひくこと
 能はと。髪髪焼爛き。物具に火燃はき。今なれと成て逃出せ。孫の上に踏殺れ
 諸卒の叫喚耳を。既小塵死と見え。西に陳前押立。妙法首級
 旌旗不思後や。旗の風み送る。東に向く。翻り黒煙猛火も。こころ東方
 いたる。き。吹く。凄々たる風の響。長茅高草も。一面に東に臨。偏。西に暴
 く起。煙浪夷賊。吹着。徒。奇怪。清正馬上に衝立
 あがり。面。東風忽ち西に変。敵軍已が尖火焼る。花城焼火に
 輝。これ妙見。星王の奇端。や。佛天。加。味
 勝利疑ひ。進や。一舟に。還。賊將世留。登。宇。額。と。虜。ふ。せ。よ。せ。
 策と上。下。細。剛。將。の。下。に。弱。兵。な。ら。お。ひ。飯。田。角。南。諸。庄。林。集。人。陰。
 燃。一。裏。に。近。入。四。角。方。お。あ。り。戦。へ。紀。田。林。中。と。は。ら。諸。軍。精。心。と。抖。擻。
 左。刀。薙。刀。の。切。先。と。ろ。へ。素。秋。の。勢。と。雜。伏。切。倒。と。こ。草。は。前。に。般。り。素。賊。へ

東風俄小変ト猛火已と焼を見く周章一とうとう。竹の日は勢の勇壯
 お近き。蜘蛛の子と散ら。長草深竹。垣の如く入。竹の
 した。押。分。撥。入。有。状。水。牛。の。水。と。溜。り。豪。猪。の。草。に。匿。り。も
 疾。人。間。為。も。竹。を。以。諸。軍。は。づ。く。駈。入。と。も。草。の。系。互。に。結
 び。獲。の。袖。草。摺。の。糸。に。纏。を。張。繩。を。引。一。歩。も。草。と。分。は。と
 能。は。さ。其。間。賊。軍。遠。く。退。き。く。勅。作。更。に。靜。か。り。去。も。炎。火。十。三。に。燃
 の。り。煙。地。を。包。も。諸。軍。焦。熱。大。焦。熱。中。に。有。が。く。面。向。金。に。様。も。清。正
 味。方。と。顧。も。今日。の。危。き。も。燃。眉。の。急。と。謂。つ。べ。賊。軍。遠。く。退。き。く。神。佛
 の。加。護。と。い。い。ま。う。汝。の。勇。氣。お。よ。る。一。先。勢。と。班。登。一。諸。軍。以。令
 一。尖。火。踏。消。燒。亡。の。空。地。に。陳。と。取。じ。く。息。と。ほ。ぎ。ふ。る。此。時。人。兵。糧。と
 用。人。と。ら。に。軍。中。に。水。は。見。は。じ。け。竹。葉。と。く。馬。お。け。て。死
 賊。軍。村。奔。の。内。有。く。火。と。放。る。に。致。した。諸。軍。馬。は。と。ぞ。防。殺。一。馬。お。ら。ふ
 八。方。に。狂。い。奮。路。と。眩。ま。ま。も。う。武。を。煙。お。ほ。り。火。に。近。入。水。を。く。く。燒

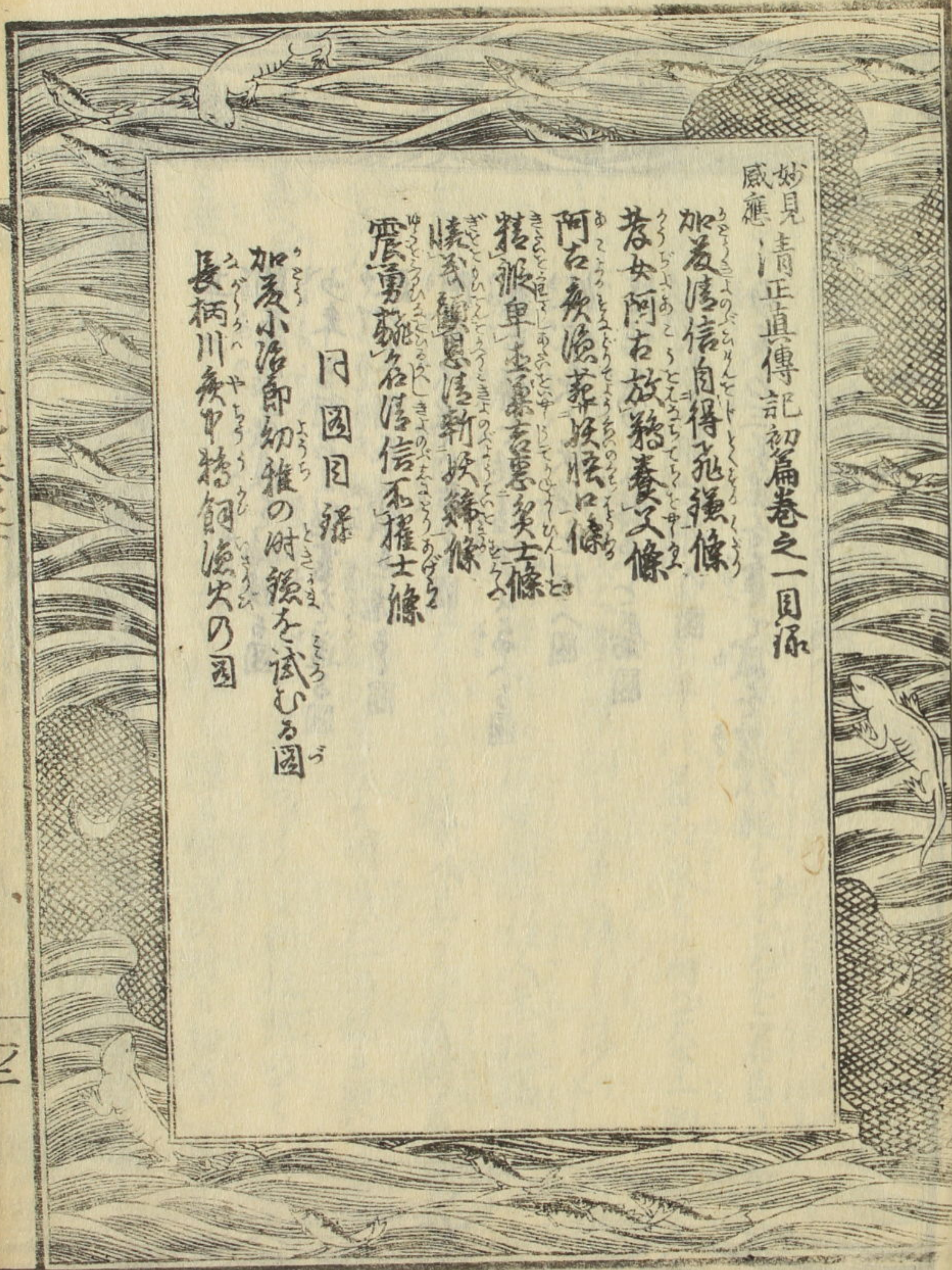
失し僅に死に強はるも。敵味方死踏のら踏碎くれ一釜の水もさうり
久。諸軍大いに欬き味方は路の地はけり退く人ともるに過途なるは隔
たり進んともさへ前路既も後より今ハ若居るに渴死。異境の廣野
み死をともえ遊魂古御を慕ひ万里陰海のくみ吟うらん。悲ひまにほつ
有状ハ漢朝の蘇武が匈奴のくらに留りしを。奮里と懐く悲し。以て復後垂
く向く。故もまでも思ひ出らるる。哀まらり。流石も千丈万絶と恐怖せり
剛将も目前の渴を救へき謀畧を頭を垂く居多し。指久在り諸
軍之願。死生の數ハ天に任まら。聖人とも行陳蔡の困と脱まら。期ハ
臨して屈死を候ハ勇士の通ハ遠。汝等四方にらまで數多。井成塚
へ。地中水もして草木生らるる。ゆらゆらと令とけて士卒と勵は。時芥
組も毎に。持彼方此方と湿地を撰。塵土煙をのこり。はげ。天二天と塚下
ま。土地堅剛は。一尺の湿りもわく水一滴もさうり。諸軍ま。愁心
某等數十ヶ所の地を塚と。とも地中の水脈に。さ。今ハ井と塚と。

やめ夜ふ果てて退き。一夜の雨も水もあふ。清正頭と振。用い給
て。汝等。舊路。今。社士陳。死せる。清正。今日。軍中。僅。一日の。昔より。進。地。今日。軍中。水。僅。一日の。渴。死。先。地。退。甲斐。所。藤。剛。死。入。とも。死。食。飢。汝。諸。清。正。荒。荒。地。火。燒。都。向。攻。入。敵。進。出。防。水。夫。賊。斬。屠。屍。血。霞。も。渴。漢。秋。の。壇。を。め。人。夫。夫。今。日。西。風。起。旗。の。靈。驗。頭。の。人。妙。見。星。王。の。加。味。方。味。方。に。若。う。の。後。も。未。だ。の。ら。今。晚。北。斗。と。丹。行。と。夜。水。と。い。の。の。諸。軍。も。見。と。至。極。の。利。も。師。と。班。も。草。命。の。惜。き。に。人。事。と。願。け。上。五。日。十。日。枯。渴。の。若。を。蒙。る。も。死。を。を。令。

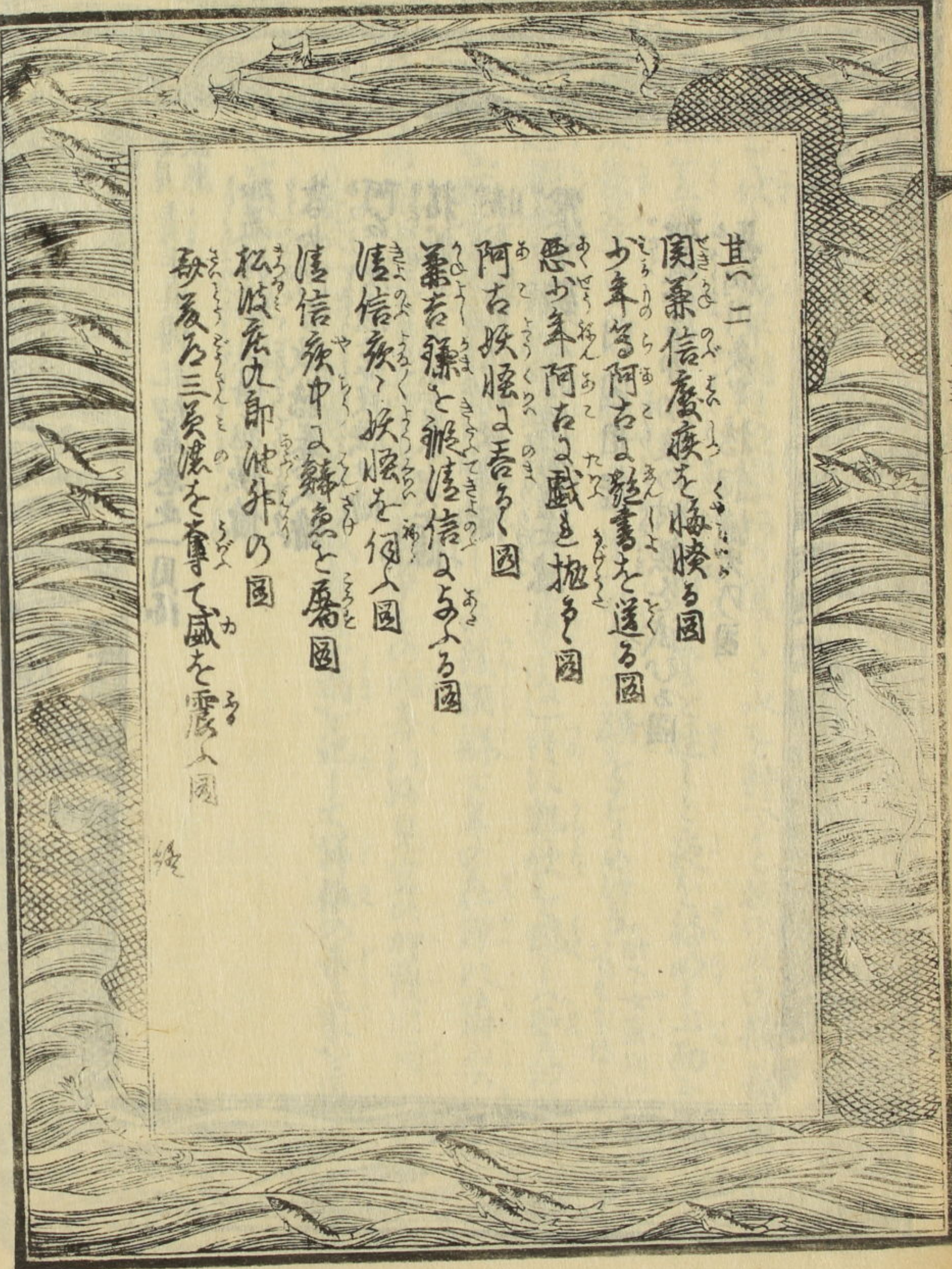
崖巖してを勇けける。頃しも四月の下旬夕陽西に沈みて後月光いさし昇り
 つも夜に次第に更更として星の光暗くして煙りき。秋の重風凄く
 世上寂寥とみえし。陳の舟大鳴りし。塞中の征まき。塵を捲く清水に
 折る。清正身を海に漂ゆ。水は清く。塵を捲く。清水に
 換還る。北中の方後に向ひ。謹く帰命を祈る。掛巻も惶き。北中雲星垂射
 天地の光り明ら。妙見宮と名する。衆望本令と名する。以前より。清正と
 化か加。西風と颯々。勿忘美賦の雅と解る。秋も軍中水も枯渇して。五子の願兵
 屠此の雅も懼る。後周後漢の武師將軍。統玄水を求る。以見て。剣と取。敵
 刺し。靈水凝り。佛三軍の渴と。我朝源頼義。八幡宮。丹波。丹
 と。山岸を衝く。飛泉忽も湧出。官軍梅渴の苦も。清正も代
 亮季の持して。徳和漢の友。控に。忠膽何ぞ。上右の三將軍に及ぶ。ん
 今某軍中水も乏しく。此曠原。井と穿ち。水を得る。需ると。現。一偏
 の咽い。も得る。願く。星王我。必渴の雅を。懐く。水と。地井の中。

う。秋然として。雨澤を清く。凍の上。灌ぎ。三軍乾死の苦。救ひ。清正
 子。孫に。長く。妙見宮の威徳。ゆ。命。日。妙経と。誦。晨又
 の香花。退。冥。靈星の靈。星。く。の奇。端
 を見せ。や。躍り。上。地。伏。精。と。行。將。士。軍。率。奇。不
 妙見。星。が。輝。丹。折。以。感。應。は。哀。愍。也。受。に。あ。る。を
 叫。地。軸。も。ゆ。は。り。易。に。心。を。同。し。る。附。金。と。或。君。臣
 體。を。合。せ。丹。折。皇。天。に。通。下。る。や。一。天。須。臾。の。い。ふ。丈。里。間。と。変。り。雷。の
 くる。雲。霧。漫。く。水。雲。東。西。より。起。る。風。の。響。き。の。荒。く。電。光。震。雷。な。ま。ら
 鳴。こ。り。急。雨。盆。を。傾。る。如。く。降。り。ぬ。ぬ。妙見宮の奇。瑞。明。白。る。と。諸。軍
 惟。の。銀。光。高。く。放。射。す。諸。軍。陣。外。出。最。前。小。幡。る。數。十。箇。所。の。井。と
 見。る。清。水。泉。と。溢。る。井。の。外。突。昇。清。正。再。い。天。地。を。頂。禮。す。の。ち
 諸。軍。に。喝。令。し。斯。る。靈。驗。を。蒙。る。上。と。神。祇。の。加。護。味。方。に。り。勝。利。更。に。報

今賜るところの清泉こそ北斗の神水不老不死の良薬にまゝ合致す草も
 時ふくそ病に弁し諸軍の宝水と飲で我地向る劍戈美施の禍を免れ
 夷賊を伏して治平明日の間より宜しく水を貯ふ。物の具の櫃長持の器
 或陣を兜の神にふるまで水と貯へざるを逃しと夜を待ゆ。一面ふたを放り
 茅茨長草をく焼立千里一望して旗をとりぬゆる。以下女直國の合戦の
 記に忽都城を墜入世道登宇須と虜とに終に凱歌を飛し。聖神鬼没の勇
 とくも妙見威感もまゝ明著し。その後朝鮮七年の在陣に蔚山の危急に
 夜撃の難小つらまで四度度の戦争その回毎に妙見宮の加護に預るべし
 頭然り其の一部の首卷毎に威感の可畏と記して帰依の童蒙と導す。乃こ
 余ハ註中に見るべし



妙見 威應 清正真傳記初篇卷之一目録
 加茂信自得飛強條
 若女阿古放鴉養父條
 阿古疾徳葦妖怪に條
 猪坂車志麻吉惠美士條
 晴義顯恩法新妖婦條
 震勇魏名信不權士條
 同國目錄
 加茂小治節幼推の附録を試むる圖
 長柄川疾中精飼徳火の圖



其二

関兼信廢疾を悔悛る國
 少年阿古は絶書を送る國
 悪少年阿古は威を抛る國
 阿古妖怪は吾る國
 兼信謙と兼信は吾る國
 兼信疾は妖怪を何人國
 兼信疾中は兼信と吾る國
 松波居九郎波井の國
 毎夜三英浪を奪て威を震る國

妙見 清正真傳記初篇卷之一

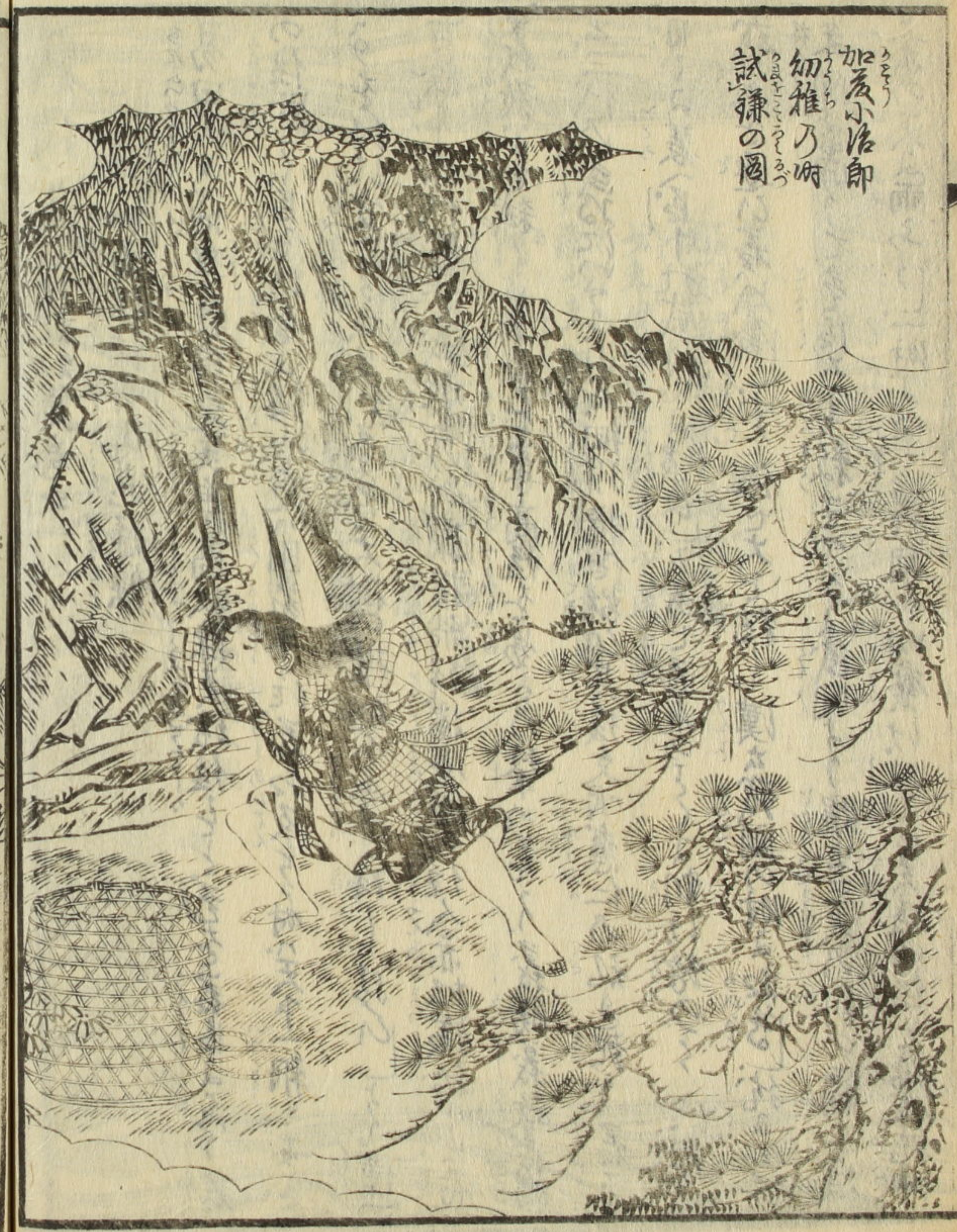
加后信自得飛簾條

易曰天者地卑乾坤定矣卑高以陳矣後位と云是を君臣と云る君
 の位正しく臣その令に従ふれば國家平らに君お及らる時天下一朝安と
 るを以て宜かる哉是利を氏公大樹の權柄を掌り降し給ひ下る僅二
 百餘年六代將軍義教公の時霸權稍解横麿國の位人赤松後祐と云る
 義教公を弑しなり是を卑高位を易るの肇也是より義勝義政義隆
 云三代乃武治にいつ山名細川權と號ひ其後文明應仁乃亂と死し君る
 日くは襄へ臣下は威月くは増長五畿七道凡のどくは割は惣のどくは死し
 或は父を逐ひ君は廢し小を侮せ大を殺し漢去我國の時はお徳統は正
 年間に出りて是后公年教日づくは武間より躍出三尺乃劍の霜を枝
 桑の天は雨ふり一射は宇宙此間を切斷け畢る矣城の位と傳は乾坤



青正記初篇卷一

加茂小治郎
幼雅乃術
試練の圖



青正記初篇卷一

を定めて給ふに時列長是れごとく吾奇功と歎と著後」といふも其の中又名
智天地を震く。後嬰の小児は泣き止むらう其家傳に故肥州の牧加藤重
計政兼肥後守侍從後又位下賜を居る名臣長原清心なり。遠く先祖を稱
る人長の祖天時天皇根命の御苗裔大威冠謙之の孫武智麻呂云々出
づ。武智麻呂より十代乃後流武者云々家と云ふ人あり。朝廷は侍りて武
者不ありし如く官を辭して吳越國後。加藤と稱し民間に在り。農耕を
營みて終りて。云々より十代乃末又加藤小次郎清信清信の一人の生れ
沈勇はて膽を人々驚かす。材実強力強し。幼稚の時に父は後三母の長男
又成長極むる若幼に就きとも農業の暇に射の射に射る。武流と好む。十二三
歳より父又支那に出る時に去地廟の社境に於て鎌を以て高木の梢を
薙ぎ取る事を練磨し。苦心を乞ふ。又轉て月々余念を忘る。食の時に必
きくも海に動せば目を善く。夢ごとく則ち後三母を脊負家に後

る少少救回たり。然るに心の機妙妙不をのけり。後其間六七歳を隔て
目的を乞ふ事を死に鎌の圓月乃を乞ふ。然るごとく。又の御書録にして。結
本乃洞を殺せり。又異る。乃百教育中切て落さばと云ふは。又十六歳又
ありては。飛鎌の柳掌に入里。深間江燕女巢を放と出る。不切落は。或
翼に生る尾よりあれどに。目的を外に。見る者驚嘆せしむるあり。
燕の小次郎と云せり。まのまの。乃劍術槍術に。執心し。武藝一流の達人
と云はれ。遠近を乞ひ。これを防ひ。天晴武技の名譽し。を味さる。小次郎
十七歳の時。母の渠が。猿猫の及ぶ心を。乞ひ。只願成藝を。好む。と云ふ。一日。側
又拓き。かき。流さる。小次郎。席とり。路を傾。幼稚の時。我父某と云。我家
へ。旧名。は。の。子。孫。數。代。以。來。農。業。に。墜。入。終。り。行。部。の。責。任。と。云。ま。り。と。流。り
終。り。同。族。彌。隘。し。て。鎌。を。流。る。此。を。乞。て。傍。り。を。後。嗚。呼。に。感。仁。る。は。再。び
終。り。る。家。名。を。乞。り。又。の。靈。を。後。を。乞。り。せん。の。を。乞。ひ。人。心。地。は。き。て

清正記内

うへ後熱世との勅諭を考ふる今世天下大乱の時義兵起るる事
自己の才徳有る者いかに武士と圍繞せしむる報鞍と誇りて金銀を蓄うら
二國兩國の事と仰ふ既に此國福原山の嶺を越え入る道三つり山城國西
國の諸民此を驚懼て國々を徘徊し終に必ず是明鏡抄椿の家と事
ひ兵隊飛彈兩國に主と稱し隣國を威を振る農産の家よりかき大國
の諸候もあつる係る我國を何ぞんか成りおこし依る耘耕の業を
棄てて武技を換未熟を放り刀槍を執り大人の侍り又より集りあつる
不考ふは侍りもけ一條の如くいかに後流り冷やると懐ひ止るはこと
を適し理るゝを奴も渠が志乃堅固なる心で再び流り心乃任まぬ
をを勵せぬ

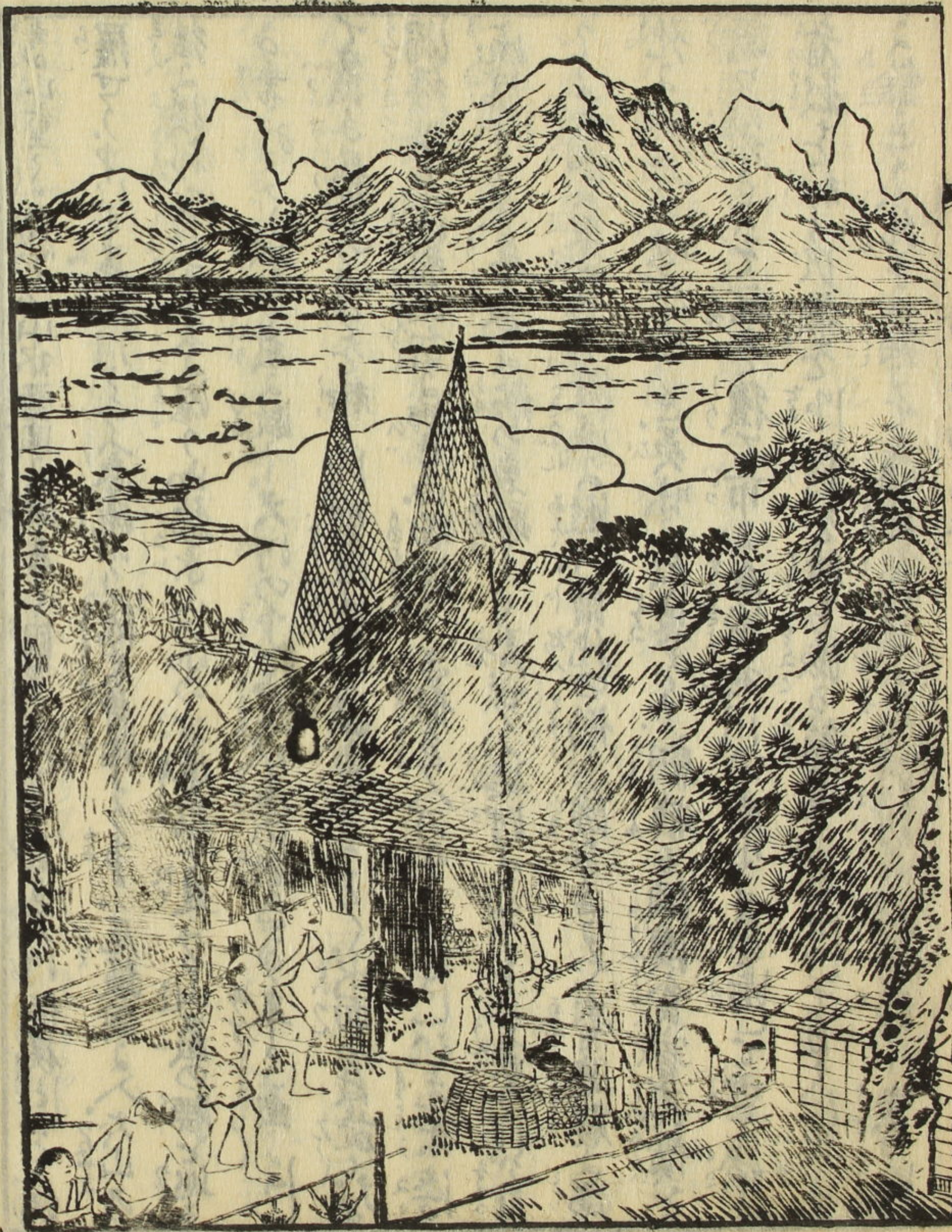
孝女阿古放鶴養父條

東山道長濃國の近江伊勢尾張信濃飛彈諸藩並に嶺を交へ東山の二方
る山重くは破ら山水西南に流るる國中に入るる所又大河後横とて網
羅せり中に長柄川とて急流あり源本曾踏よりなり尾張國に入大山の
後又横あり其末又瀝り出福原山の所の方屏風を建てる山麓の腰と巡る
り希む下く水勢激しく大河の中と穿水色の深きり年々黄くはし
て我ら易とつるを知り此物潭蓋を漂きりるごとく水面には旋りたる
溜繰環り遠野山岳に都着き物漂りき形多人の心を寒にむえ素浪
流流るるも年々又鮎の魚獲りく春せり流河よと下るる魚もれが自
ら石間を早走り激流を激げ雨流の激き渡るきや膏腸腸は淺
死に異なる味ひありと美味は魚をも刺換る酒漢食客其價と
深りて求るもそ鮎を獲て市に賣漁者川の南水は家居して世に後
者教を知りて網を下し鮎を放ら漁る態とくはして月々に巨万
と餘とる猶るも網を獲る肉味少く後世に鮎の坊へ魚の良

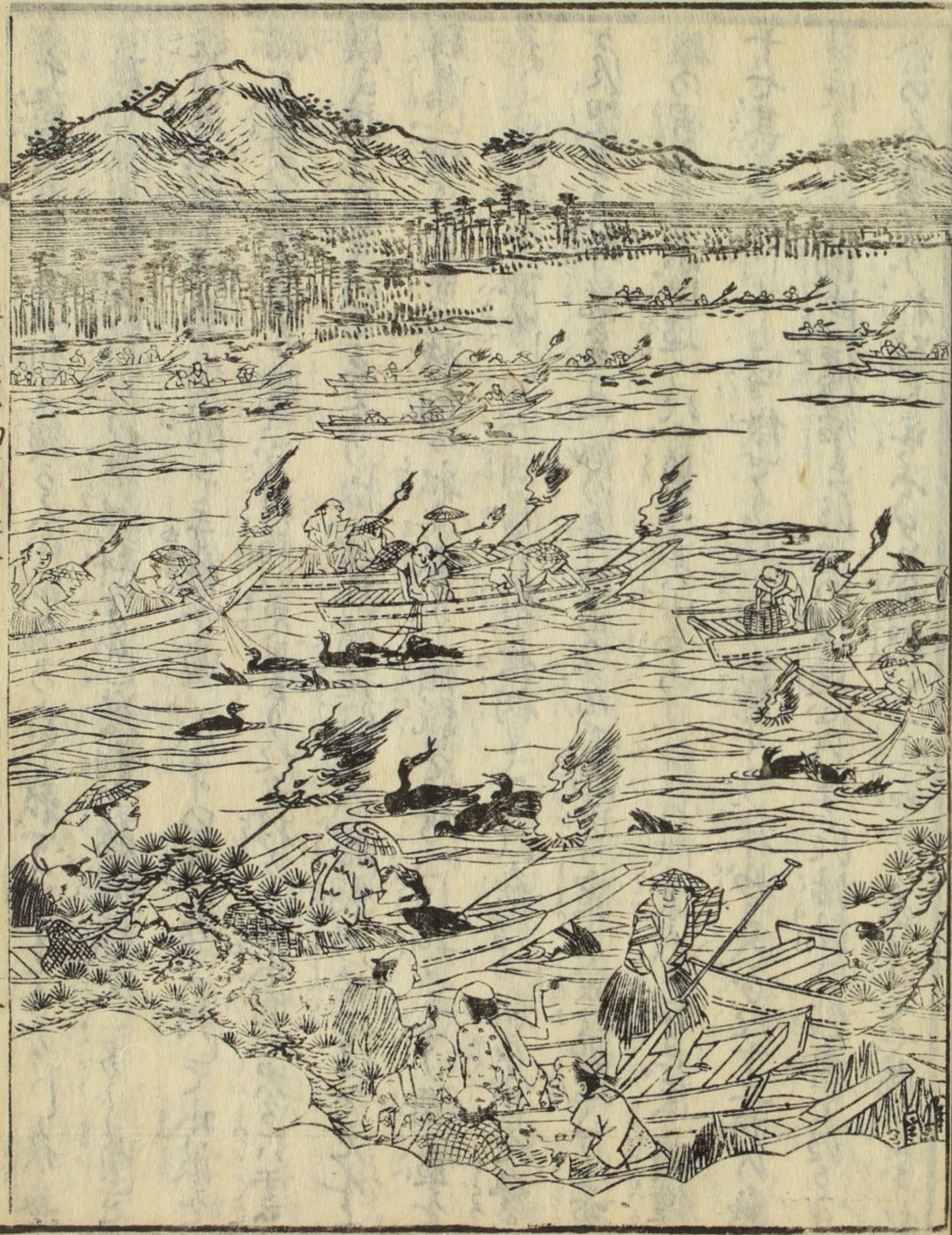
長柄川 中 魚 漁 乃 園



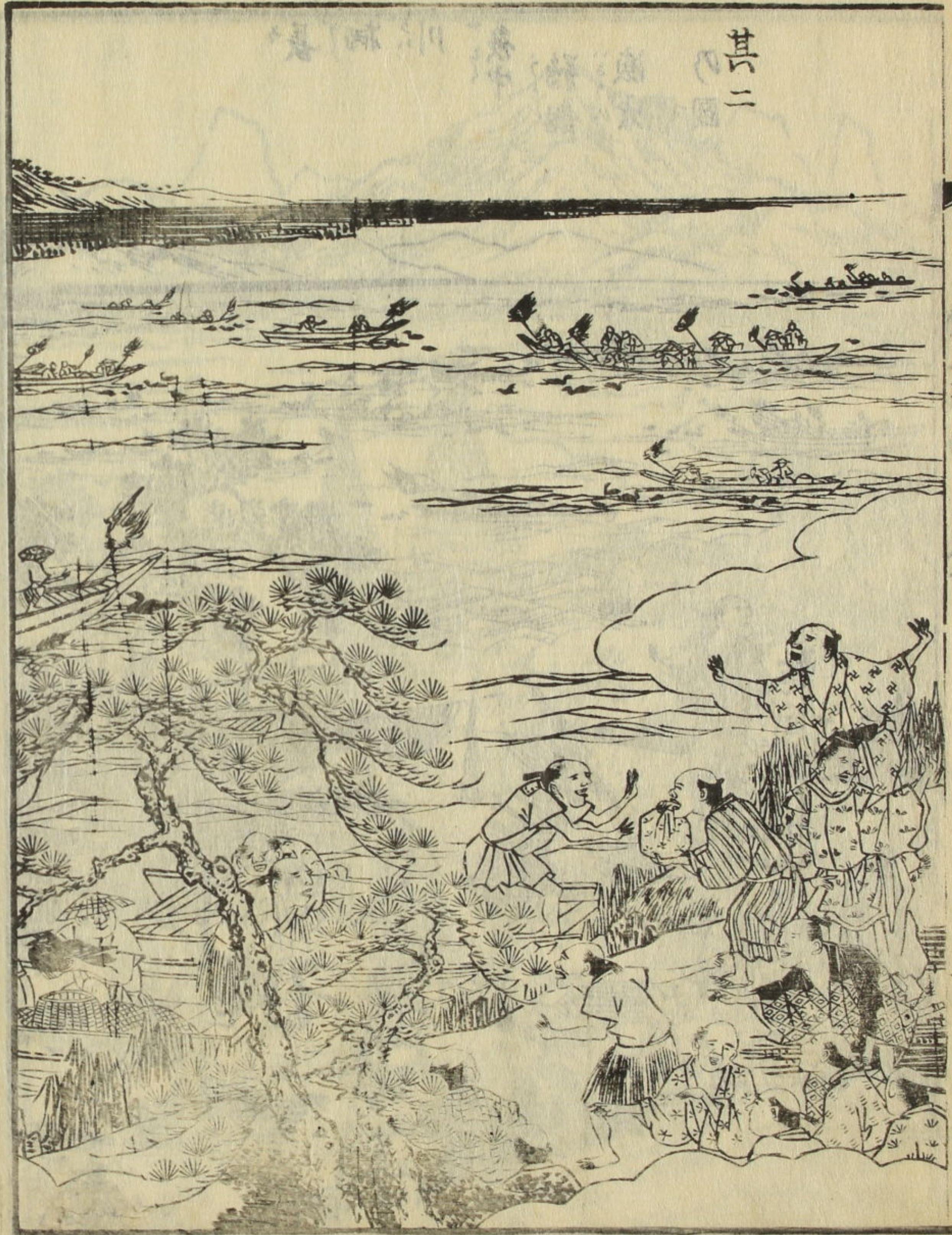
清江川



清江川



清正紀初篇卷一



其二

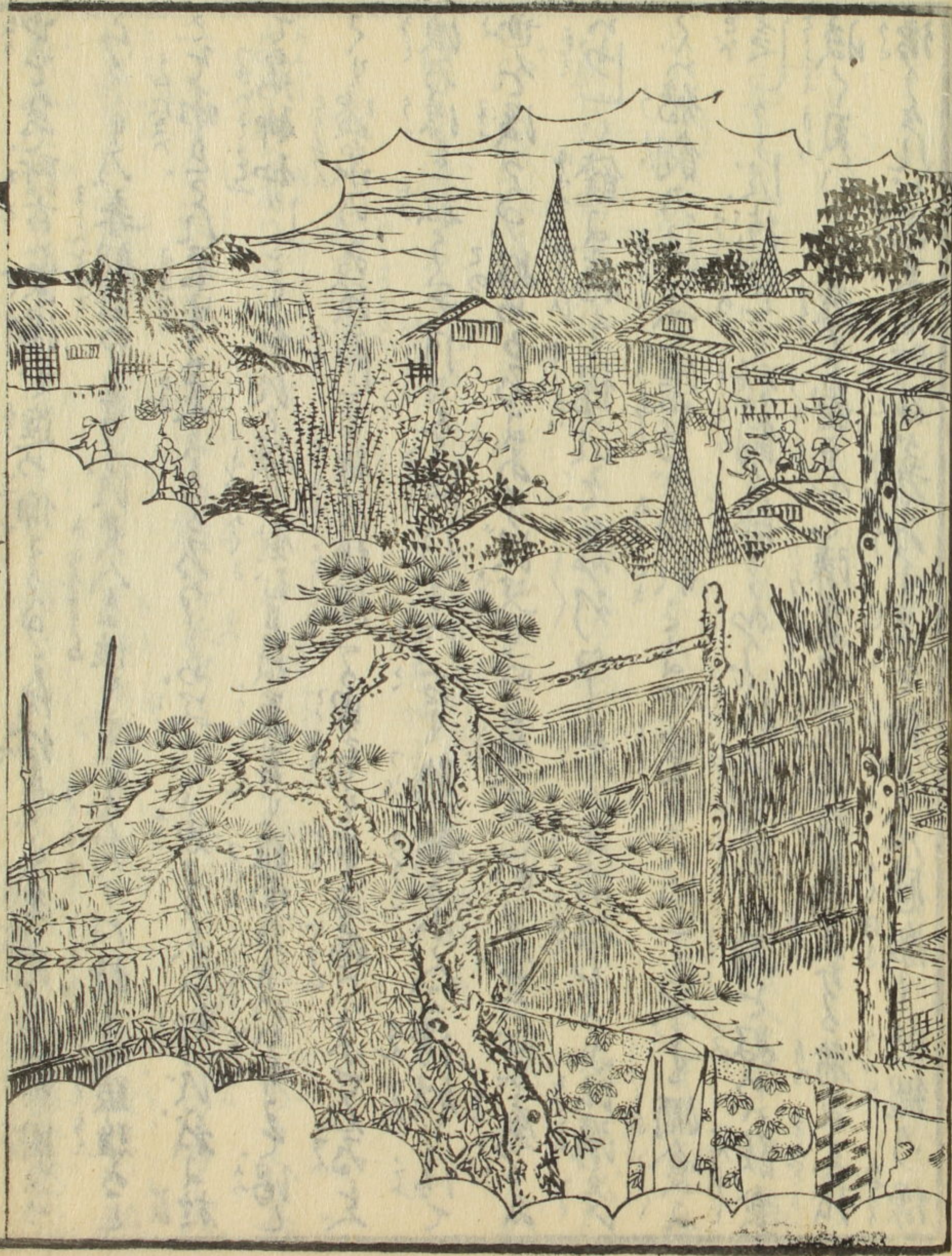
清正紀初篇卷一

とて直大さよる。利は廻る心。後者乃家。我は又鶴をとりたり。疾ぬ
よ松明無を燒立。教百の鶴。松群を如。鶴飼が鶴網。縹久し。芳が遺と
競い進。松とみ人か。謝して手練を遺。水中のる。な。謝して水波を
踏。舞の火光。水を燈。三月雨の夜。曇りたる。おろる。水面の火。さ。雲
漢。又移。骸。さ。さ。さ。う。は。近郷。化。境。諸人。鶴飼の。後。と。と。見。と
群集。使。と。需。め。鶴飼が。松。又。ぬ。サ。酒。瓢。を。携。へ。月。松。又。さ。り。酒。壺。を
飛。詩。歌。を。詠。吟。し。又。二。面。月。の。鶴。長。柄。ま。り。た。れ。次。塔。の。眺。景。目。を。驚
う。尻。親。なり。却。説。ま。又。一。流。乃。奇。境。あり。元。て。鶴。近。が。軍。の。會。荒。進。する。並
雄。の。男。ま。る。ふ。け。造。り。に。一。箇。の。英。小。女。あり。鶴。近。に。業。人。の。証。と。年。齒。僅
十七。其。名。松。阿。古。と。呼。ば。せ。り。鶴。網。乃。縹。と。り。神。妙。又。も。た。十二。羽。の。鶴
を。ほ。く。ふ。縹。御。少。纏。絡。と。は。多。の。進。退。心。の。ま。に。活。動。き。筋。愈。と。は。る。り
余。の。ふ。隣。せ。り。抑。鶴。を。さ。る。り。我。朝。い。と。上。古。より。あ。る。る。あ。や。既。又。月。本。紀

神武天皇の巻。又。見。え。う。往。昔。より。鶴。飼。と。る。國。教。多。あり。と。十二。羽。の。鶴。を
自在。と。る。り。の。老。練。の。人。の。と。る。者。也。され。ば。阿。古。が。多。振。の。速。き。る。ふ。似。て。人
ま。る。り。と。さ。や。又。手。弱。女。れ。ぬ。ま。は。し。き。事。又。妙。多。か。た。る。其。謂。と。い。ふ。に。と
勢。も。又。渠。多。う。け。國。の。産。り。何。れ。其。必。然。系。都。け。人。義。晴。の。軍。に。耽。進
せ。一。上。世。老。道。と。云。某。の。一。者。之。若。年。の。附。御。乃。過。條。あり。と。若。の。不。真。と
蒙。り。浪。く。年。を。思。ふ。再。び。刀。劍。を。腰。に。挿。と。二。若。の。孫。と。相。じ。と。英。彦。國
関。と。と。た。た。歩。を。止。り。刀。振。治。を。事。と。し。関。法。次。郎。兼。意。改。め。月。藏。乃
振。治。系。良。右。衛。門。尉。兼。女。が。妹。を。娶。り。て。妻。と。は。種。ろ。く。女。二。人。を。没。け。
姉。と。阿。古。と。呼。妹。と。曾。根。と。号。け。り。二。兩。女。生。後。い。と。増。生。は。て。面。の。と。細
う。せ。り。又。婦。が。髪。を。限。り。た。く。掌。中。の。珠。は。ど。く。板。磨。り。居。り。た。る。二。附
女。房。の。地。割。を。い。た。と。病。床。に。臥。り。しが。病。勢。日。を。思。ひ。て。重。く。再。死。と
被。り。た。げ。附。阿。古。漸。く。又。歳。若。根。僅。く。三。歳。兼。吉。一。人。病。婦。切。呪。が。病。者。又

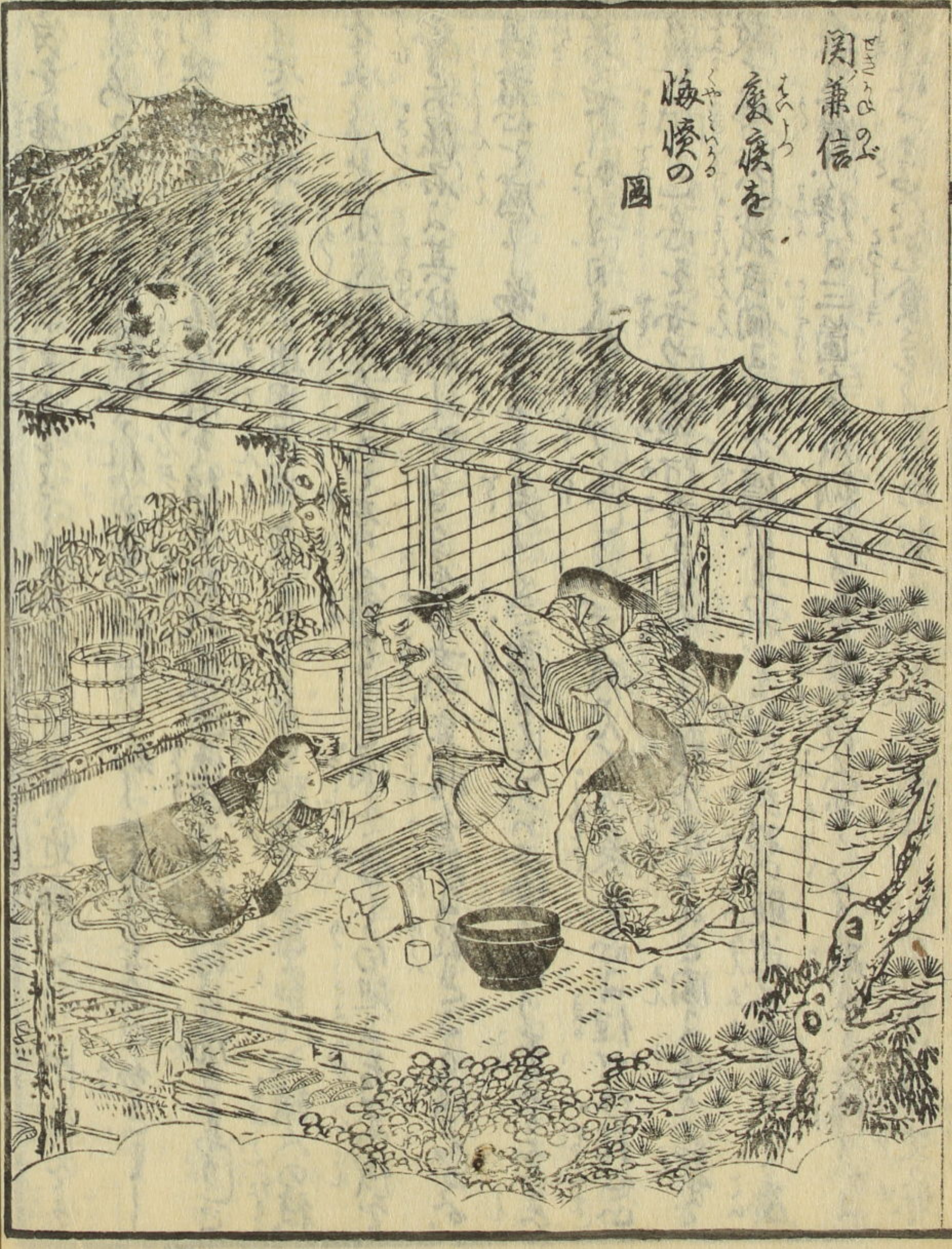
程力と云はし。後には痛つて入る。幽冥の割懸僅ども。後には水中の
空に縋り。家多し。妻が長病兼用のあり。黄白の怒り多く。世少の
終へ悉く。病き。小女を二人。東の西の毎人を。多困い。よく迫りし。は。
畢。又國の地を去り。日國。金生山の邊。に居。後。ぬ。を。う。刀。剣。い。ま。
又。農具。肉。刀。丸。穀。を。需。め。に。應。じて。飯。ひ。細。き。煙。を。立。に。多。う。年。月。後。の
往。還。も。ろ。く。お。く。婦。人。十。に。歳。殊。十二。歳。と。の。附。兼。者。忽。ち。中。風。を。吹。ひ。
偏。身。麻。の。ご。く。と。藤。言。語。少。し。も。往。く。に。二人。の。小。女。且。夥。き。且。懇。と。懐。く。
又。抱。し。近。隣。の。漁。樵。等。も。し。も。来。り。穢。業。必。進。じ。ま。ど。と。効。驗。御。
見。ま。ど。一。月。斗。志。と。去。洛。少。く。伏。し。と。し。手。足。痲。痺。と。ま。り。の。始。り。遂。
く。ま。り。た。ふ。一。月。に。終。へ。ま。り。ま。り。妻。士。痛。床。の。例。と。く。後。に。其。日。乃。煙。止。
琴。雅。之。阿。右。天。地。恰。剛。と。孝。心。沸。く。付。け。し。と。又。が。痛。を。救。ひ。心。と。安。う。し。
り。ん。と。竊。と。者。根。と。向。い。は。い。の。例。を。ま。り。の。り。看。痛。せ。よ。の。ぬ。の。ぬ。

身を獲女と愛我の乞食とる。と私なり。近郷より。少。後。を。乞
り。め。く。又。を。寄。り。居。し。され。も。又。は。望。く。知。り。せ。ま。り。と。り。の。物。と。し。し。
行。地。へ。お。じ。と。忍。び。り。御。本。後。を。祈。れ。た。け。遠。の。林。社。へ。百。日。詣。り。ま。り。と。
して。よ。と。早。く。死。て。の。近。里。遠。在。と。こ。と。と。く。近。巡。り。富。家。へ。入。族。人。の。後。
を。ま。り。と。先。亦。く。れ。申。す。と。又。と。寄。り。寄。り。と。洞。を。含。く。白。地。と。若。菜。後。を。
お。し。の。流。石。と。其。状。緒。の。ご。ご。と。又。お。女。の。実。情。を。外。に。破。し。と。り。分。か。る。ふ。
其。孝。心。と。感。動。物。と。亦。り。多。う。と。三。兼。吉。と。し。め。り。二。女。が。仍。り。善。人。を。ま。
実。と。せ。り。の。目。に。れ。食。り。後。し。う。と。り。分。り。て。み。ま。り。と。心。は。但。せ。と。程。心。い。
た。し。け。り。已。心。を。安。め。り。お。阿。右。が。乞。食。して。糧。を。求。る。よ。と。園。と。賜。り。怒。を。
放。て。啼。哭。し。我。民間。と。身。を。漂。ひ。と。り。も。往。り。武。將。の。既。近。不。幸。は。して。慶。
後。に。罹。り。後。に。三。箇。が。以。分。類。と。り。の。終。り。人。並。と。り。勝。り。と。り。清。く。ぬ。
す。れ。り。の。子。に。乞。食。と。り。の。の。愁。と。り。と。園。を。囓。り。か。き。口。況。は。妹。り。又。察。



清正巴力篇卷一

十一



関兼信
廢疾を
悔悛の
圖

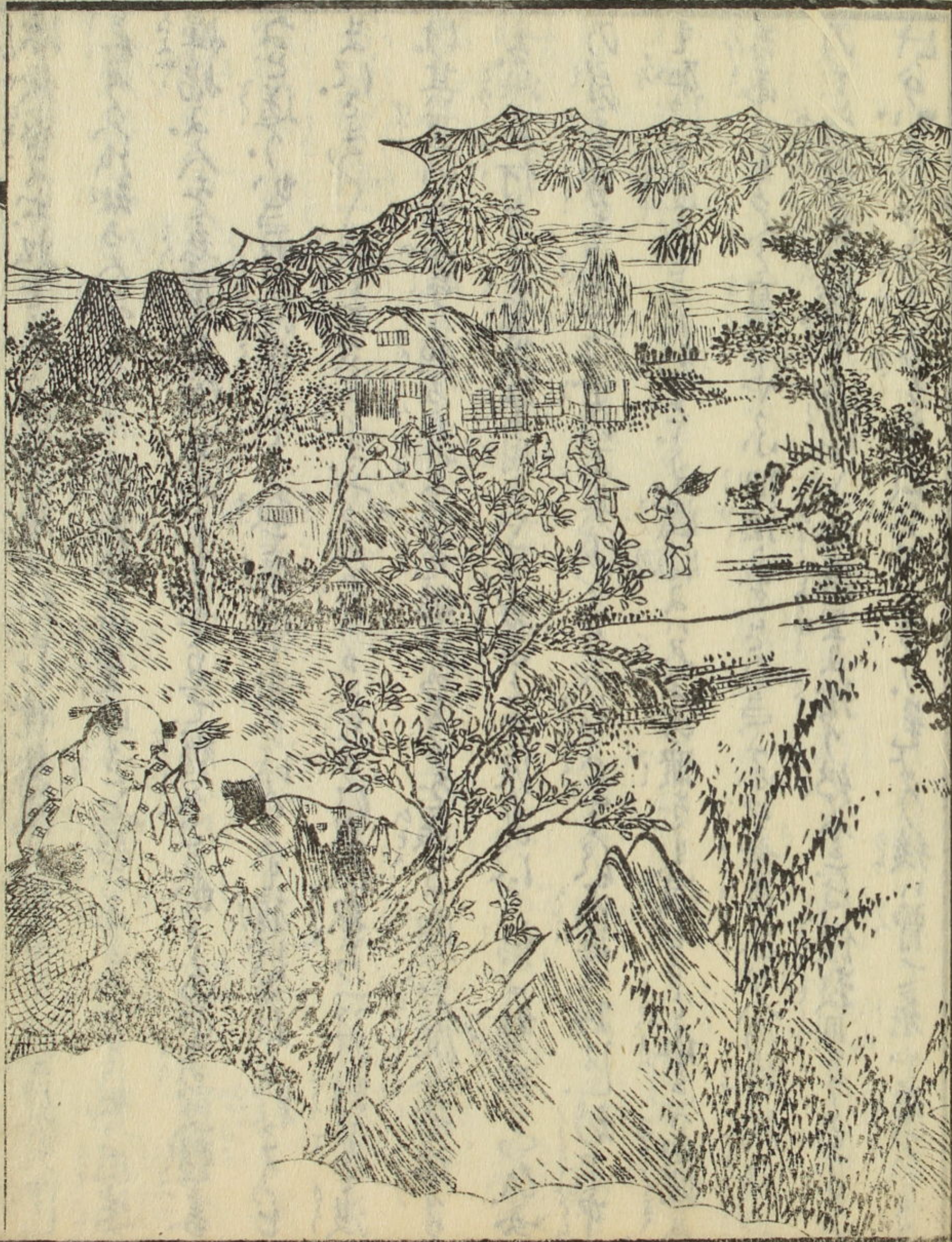
清正巴力篇卷一

十一

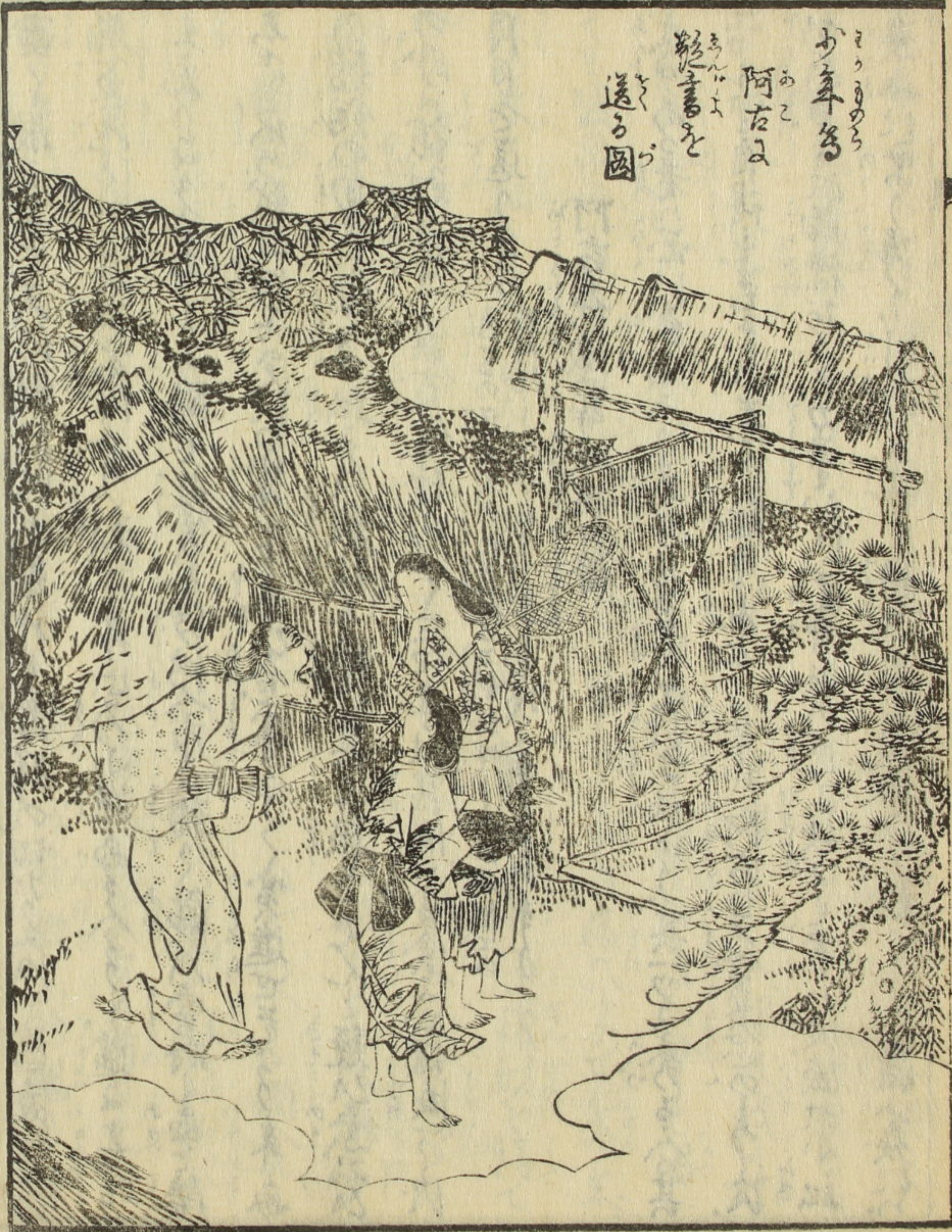
中とて阿古の茶湯を造り仰るるは付とて。契亮よりを困ら
 らしむ。毒親子のまらけは美人も位も世に如くは種々の根難と
 こそ承てし若生は定まらるるや。ゆえに思ふに。わが
 て病神和し。こもるんは換く。耐し。兼吉も雅面きりの命を喝し
 くと。盛家のみ成。語じ。と。梓弓張。造る。男氣も。重き。痛い。ふせ。ん。る。ん。
 浪の波と。船う。て。月日を。こ。ける。阿古も。熱顧る。ふ。人。は。後。財。と。信。て
 世を。後。る。り。奴。め。る。る。ふ。あ。り。又。心。の。勞。が。し。か。ん。其。心。と。慰。る。ぬ
 い。少。く。饒。病。を。保。ひ。そ。考。行。つ。た。先。と。左。右。按。ど。る。ふ。比。隣。ま
 く。鶺鴒。乃。遠。又。人。集。ま。る。が。み。形。と。ま。で。富。う。る。は。し。と。又。も。酒。食。又
 之。し。う。以。然。已。り。鶺鴒。が。部。と。ぬ。我。又。日。来。に。酒。と。奴。め。が。飲。食
 味。く。月。い。さ。せ。考。を。盡。え。ん。と。隣。裏。乃。老。遠。又。篤。実。なる。若。又。志。成
 信。う。る。ん。は。遠。ま。も。阿。古。を。考。る。ふ。牙。を。願。う。る。心。感。激。し。鶺鴒。乃。保
 盡。く。教。る。よ。ぞ。天。乃。報。以。恰。剛。鬼。神。と。考。婦。の。切。方。る。ぬ。や。感。應。は。後
 々。忽。然。と。して。其。妙。不。は。あ。り。教。十。年。け。る。ふ。深。め。る。人。も。遙。又。上。手。と
 とも。あ。り。又。考。る。考。より。一。國。を。考。考。を。傳。へ。市。の。趨。く。鶺鴒。乃。實。附。し。也。と。陪
 考。く。求。め。我。又。信。て。人。の。驚。と。幸。ひ。合。奪。が。と。く。賞。進。せ。考。より。年。毎
 の。鶺鴒。の。向。又。考。女。が。船。は。銀。錢。を。幣。其。存。振。を。刀。ん。と。疑。ひ。系。ひ
 の。外。は。後。財。集。り。兼。吉。僥。倖。し。三。日。来。け。其。間。の。食。食。は。心。儀。長。く。次
 月。日。を。送。り。つ。る

阿古夜渡葬妖懐口條

先考の流人乃我亮せる刀劍秘法と云法圖秘工の
 阿古夜渡葬妖懐口條
 文のある者い必に或はあ。或。り。考。る。必。に。文。儀。あ。り。其。一。つ。又。考。る。人。其
 二。つ。を。自。得。と。考。そ。乃。志。じ。猛。き。考。な。り。先。考。阿。古。の。天。災。考。心。の。ち。次。
 妙。の。男。又。は。胸。襟。何。り。て。力。量。む。し。本。曾。殿。乃。巴。山。吹。よ。り。考。ら。は。後。れ。小。船
 夜。毎。に。考。り。降。り。川。岸。又。流。る。鶺鴒。乃。風。雨。を。烈。う。ん。と。懐。夜。に。



昔正記 力 卷一



少年為
阿古又
送る國

昔正記 力 卷一

源氏物語に出づるをて煙くし陸より引上げ曉秋風を祀きりし時引中
 屋々の風知る人交りあつたり。然るに道里のまこと好む少年ごも散り同安
 嬋婦人をも恋はれ死はしあふともをを見て。整ふことかよひあり。又整書
 こと送り。かよひ流しあはれしを教て耳にし。撥りひよる福はれしと。整ふこと
 まにまに。腹をよす。あつたり。風をよす。あつたり。思ひ忽ら。つれ計策と。没
 け。其直のゆ。罟り。ゆる。ま。ま。の。老。婆。は。あ。つ。つ。を。密。に。迎。て。お。合。て。話。さ。る
 ち。此。身。何。か。る。宿。世。業。因。り。や。中。男。子。と。中。女。の。い。く。信。又。雙。成。と。い。ひ。女
 の。身。を。男。を。兼。う。世。の。不。具。の。中。又。是。よ。よ。以。不。具。の。何。し。却。中
 中。和。し。て。あ。つ。せ。ふ。な。は。れ。ま。し。と。懺。悔。の。い。え。逆。の。罪。を。も。滅。と。り。と。承。り。の。白。地。の
 若。あ。つ。ま。り。と。真。し。や。ふ。細。語。を。さ。さ。さ。さ。ふ。は。女。若。悪。い。人。の。碎。刺。遠。近
 の。て。福。の。光。婆。婆。と。い。ひ。一。郷。隣。里。に。流。り。ゆ。ま。は。僅。敷。日。を。さ。さ。さ。さ。ふ。
 け。の。い。は。れ。は。人。を。あ。い。ま。い。う。う。う。う。是。より。後。い。曾。て。死。や。角。つ。ひ。の。り

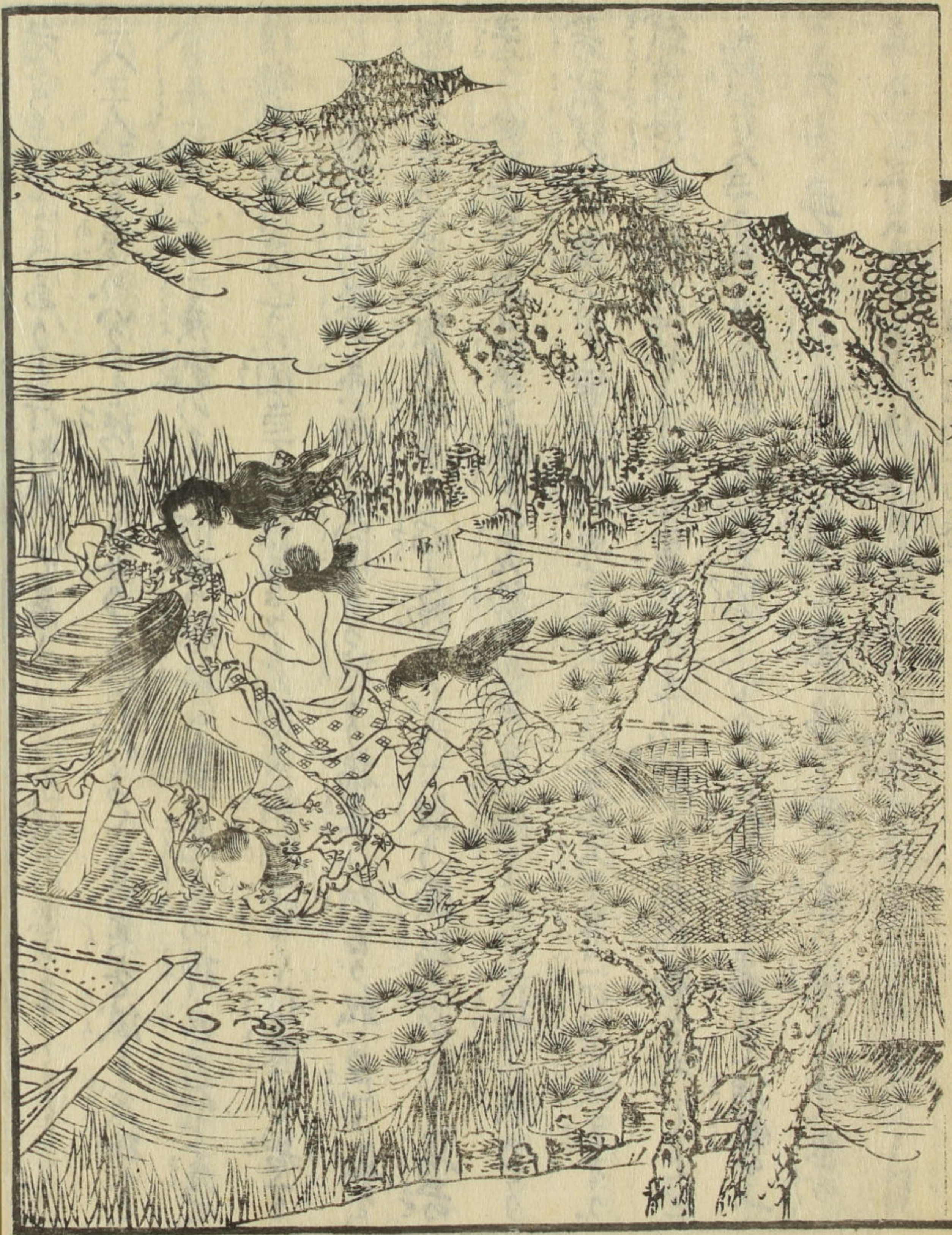
若なりはとはありと行敷笑して居たり。近隣の悪少年ともをさす。彼
 二人三人改を聚り。いふも。移し。き。女。の。け。や。お。よ。く。其。実。を。伝。へ。度。物。を。と。
 今年六月と旬一夜例のどく。阿右の移。松。と。赤。の。老。實。の。梅。と。松。と。差。せ。
 獲物。獲。得。り。う。の。園。に。不。の。松。を。と。老。松。と。餉。餉。留。く。休。息。して。居。り。
 し。不。の。松。一。箇。の。悪。少。年。松。を。去。園。を。る。地。より。指。奉。り。阿。右。が。松。に。已。が。松。を
 探。索。者。あ。つ。ま。り。一。夜。の。喧。吹。を。鳴。と。場。へ。六。七。艘。乃。渡。松。を。ひ。く。指。奉
 奉。り。食。阿。右。が。松。と。松。と。松。の。老。實。の。梅。と。一。踊。り。又。松。移。り。側。ま。り。
 阿。我。は。汝。一。身。の。男。女。の。肉。具。を。使。へ。り。と。是。天。下。并。一。の。果。實。者。を。り。
 我。僅。汝。が。果。實。の。何。や。う。と。人。の。愛。も。未。だ。了。然。く。其。肉。物。を。知。り。見。せ
 よ。阿。右。が。不。恥。を。を。て。其。款。を。強。く。い。う。は。れ。多。く。奉。り。て。調。戲。の。い
 ぞ。我。身。の。身。ひ。く。ま。は。れ。と。希。く。い。免。れ。後。と。面。を。赤。ら。流。々。れ。た。悪。少
 年。更。に。耳。を。か。け。は。汝。強。く。恥。ら。ふ。を。止。よ。見。る。者。も。令。見。者。も。皆



悪少年
蔵阿右
極うろ
図

清正記幼篇卷一

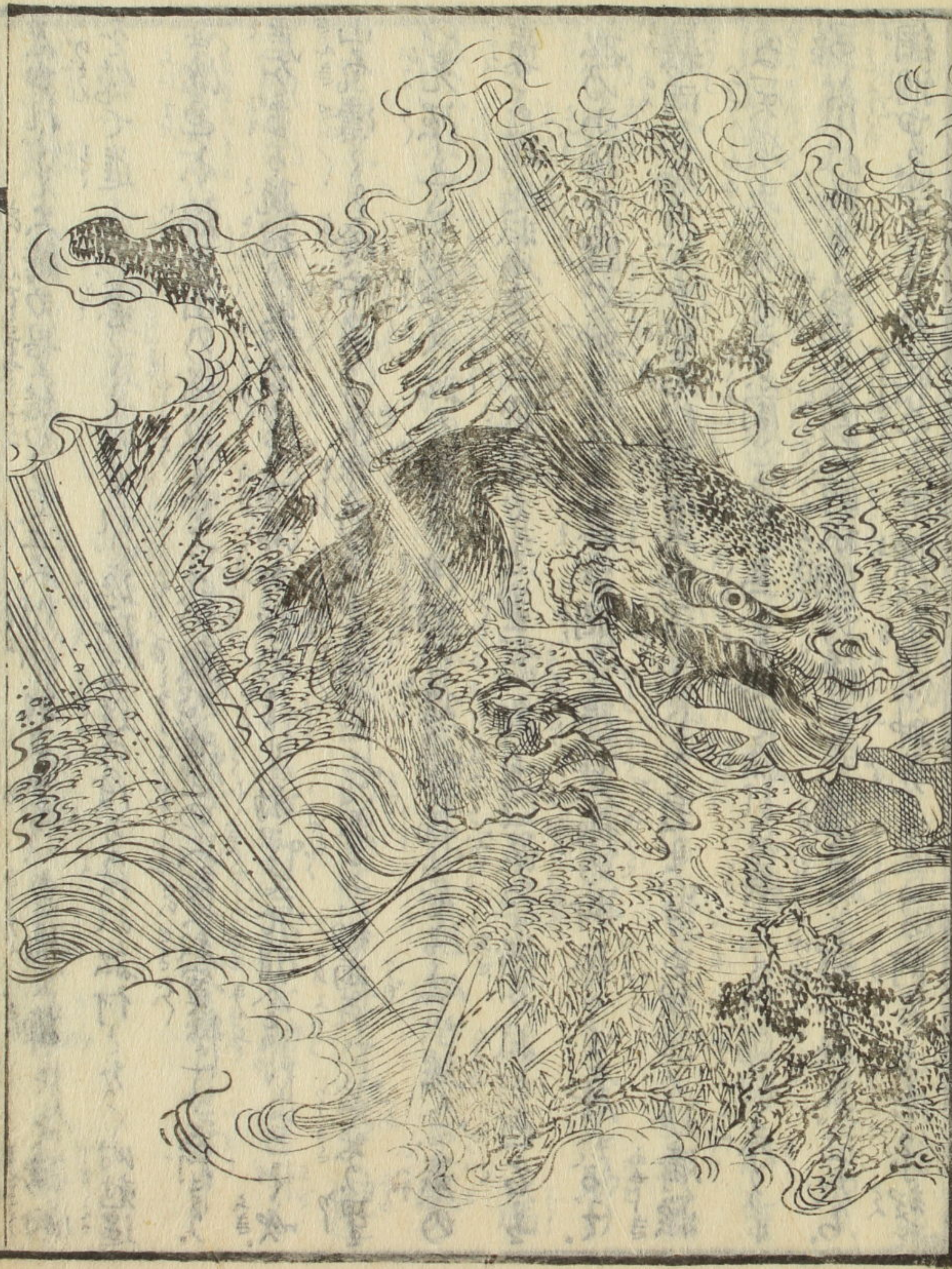
十五



清正記幼篇卷一

平家其功徳をぬると安んずるも自ら出はまじをれくもまうりあり
 七人の要堂等二日よまかり。阿右が西の肘を搦(紫綿)んとする所と袖
 後の要堂等が腕首を引福き川中へ投込せう。六人一毎に怒る所と物
 のかどとせむに費く水中に投入せ込。空の櫻の本の水訓揮を遣え。袖板
 乃とに躍せう。己が我を一人の婦人と思ふや。けむ並が男も若れ働かり。
 若れいよも懼どんば男女力を一つよ合せ食くお殺んと罵々れ阿右
 が懐か衆人よ妬するよ一怒を吃ひ。水底を潜りて逃るもあり。或る面
 を遊ぎ遊るも有り。幸ひして陸地よより吾(汝)震(おそ)れ我(わが)き振(お)人の流(なが)れ
 遠(とほ)りて男もよとつと男れ方勝(かたが)ちむべ」と。是(こ)より後(のち)戯(たが)はる者(もの)も
 てもこれば今(いま)これを春(はる)と一(ひと)向(むか)ひ男子(おとこ)のどく振(お)返(かへ)る。斯(か)く七月(しちがつ)上旬(じやうげん)ある夜(よ)
 夜(よ)かき曇(くも)り。宵(よ)の夜(よ)雨(あめ)をがらう。秘(ひ)文(ぶん)の流(なが)り晴(は)れ。早(はや)れ若(わか)り物(もの)とき
 むるなり。仕(つか)ふれ一(ひと)瀬(せ)あり。細(こ)くお若(わか)り。け以(も)川(が)の中(なか)曾(ま)て結(むす)うと思(おも)

物(もの)は「我(わが)今(いま)白(しろ)綿(わた)山(やま)の後(のち)の方(かた)少(すこ)くも。穂(ほ)なる唐(たが)何(なに)を伺(うかが)ひ日(ひ)は
 よ。大(おほ)船(ふね)多く會(あ)はる地(ち)あり。明日(あした)よむらうは化(ま)人の物(もの)よせよ。まて必(かな)らず
 たり。今(いま)より巻(ま)き網(あみ)をひて往(ゆ)くとはあふも。彼(か)石(いし)の地(ち)いと物(もの)荒(あ)きふと云(い)ひ。
 老人(らうじん)の信(しん)は往(ゆ)う疾(はや)く入(い)り。懐(なつか)しき者(もの)出て。人(ひと)をえとは安(やす)けは能(よ)く
 威(い)ともの何(なに)うと云(い)ふ。独(ひとり)りおん行(ゆ)くと申(まを)す。意(い)地(ぢ)ようう。汝(なんぢ)はし。往(ゆ)は網(あみ)の
 某(たが)が入(い)り。汝(なんぢ)は能(よ)く在(あ)る。力(ちから)を添(た)よと云(い)ふ。阿(あ)右(みぎ)惣(そう)と笑(わら)ひを呻(うな)れ。鳴(な)り
 可笑(わら)や。這(こ)人(ひと)親(おや)密(ひそ)かに身(み)れ不(ふ)動(どう)明(めい)王(わう)のどく。眼(まなこ)愛(あい)深(ふか)明(めい)王(わう)を。恥(は)ぢ
 まきまの情(なさけ)とそ。其(その)の縁(ゆかり)さい夜(よ)通(とほ)ぬ。中(なか)お始(は)り。と云(い)ふ。き人(ひと)搦(な)げ以(も)川(が)よ。ま
 魚(うい)を。こつと云(い)ふ。一(ひと)船(ふね)の無(な)き。て足(あし)む。人(ひと)詰(つ)む。船(ふね)の目(め)は。く。目(め)を。ま。し。
 魚(うい)を。ぬる。心(こころ)中(なか)へ。今(いま)宵(よ)の。向(むか)ひ。人(ひと)の。足(あし)付(つ)く。と。計(はか)り。往(ゆ)う。物(もの)は。し。地(ち)
 ね。よ。種(たね)。れ。汝(なんぢ)は。流(なが)れ。と。云(い)ふ。と。云(い)ふ。へ。う。去(い)き。来(き)ぬ。か。ん。と。弱(よわ)く。れ。と。我(わが)を。力(ちから)よ
 憑(たも)り。給(たま)ひ。二人(ふたり)若(わか)り。れ。よ。と。戯(たが)は。る。と。云(い)ふ。を。推(お)す。へ。ま。う。る。形(かたち)の。後(のち)難(たが)く



青正記力篇卷一

廿七



阿古
妖懐
のま
春
國

阿古妖懐のま春國

廿八

凡ゆるも大膽力量備りて二人併ひ船を乗り急流を棹して湾河
 を條で進み急ぐとはそれと流河は逆の流る夜に船行となく時刻違
 へ流るる。瑞雲山の城跡なる三更の敷明世との人奴寂寥しと暮るる。
 戸をさる孤村の物喰くと鳴石打水の音も弱りて七月令月じりく吹
 山も凄く冷やうなる小舟の音を陰くして星も細雨再び降る。星
 の光源もさう。漁夫船を衝く湾河乃遠く又揺めせうけをへ。巖の
 鼻に船を乗せさし揮り力を盡せば輝身は流る。汗を拭ひ阿古も
 船乃小艇を踏で船先より急ぎ網を調ひ雨の脚あうくあつたるぞ。
 暴雨よりさう。以初に帰るべし。あうくと言ひいも。畢るる小奇怪
 る二天須臾の間は太黒闇と後鳥雲漆と流る異なり。雨脚急るる
 あり。凡れ物も山岳を渡り河水流の流る。漁夫も毛孔一収り。よたら
 網調ゆる心もそ。後忙然として裸に居る。船先よりさう。阿古もさう。小艇を

上げいさや。我れもさう。船よりすも物。さう。後根際。心も終る。中
 船斜と向り。運河の急る。心もさう。水も流る。網を調ひ。雨の脚あうく
 漁船も今運水も急と巖に吹さう。さう。見下る。漁夫も急ぎ。船と解んぞ
 顧れば水の中より一道の陰火燃出。其光もさう。して電光の物くに。船さう。
 光も吹ひ。二ツの後英び出。冷と吾方。はの表阿古。急今。さう。が。我を助け
 よと。急。幽。水の中より。さう。後。見下る。消。失。て。阿古。が。姿。も。な。り。さう。あり。船
 中。と。解。り。目。来。水。練。乃。着。物。を。脱。ぎ。身。は。して。河。原。と。して。逆。さう。さう。親
 き。漁。夫。が。家。を。目。當。り。近。付。門。の。戸。障。り。斗。も。打。打。き。我。を。助。け。よ。と。叫。ん
 で。忽。其。不。に。終。例。さう。彼。家。も。さう。に。響。き。水。と。激。き。氣。付。と。さう。種。ら。せ。さう。さう。

獲銀車直兼右衛門尉次郎

花を凌ぐささるの諸及びささる如しと阿古婦女のささる心この謂いへん九勇
乳禀くたるささるて禍の基とゆ。妻は罹りて妖薩のほは華らる鳴呼喚
まざらんや和兼吉いよと文の妹を根の姉が妖怪は捕ささるをささる相乞の
どく文とたよ益疾啼泣ささるど近隣の漢文大膽の者を懼し彼をふ
ささる月々とのた漁船のささる岸は横多し其教ふまはしげと見取表
小次郎信信が武術修修の年を積るささる近國武藝勝たさる人あさ
つとま信信が武業よ及ぶ者は其志を謙の術を自得世耐いふと終り
彼の謙は挺をたさるのささる鐵匠は家に趨き彼をささるささる心小
叶の物一柄りは謙の本農具ありて農耕の具を造る下世の彼活ささる
かれ心は後物ささる理りなり又又後世の往たり彼工の名たる物教
ま出石淵元重令重志謙兼氏兼定忠義外後が輩ささる其流を
別らささる後一関が一教志謙赤坂ささる名譽のささる孫國中ささる

毛等の後身を憐り謙ると彼若一人をば猶兼吉関よりけり後
りて後肉及兼刀並刃謙火筋の類と需は應じて彼のささる後御の物と
又た彼煉細密は美実を造りて造るささる練きれ遠近其篤ささる
を称讃せり信信をささるりり移る彼ささる人ささるれと兼吉が家又
ささる雨くの由と後り又挺の謙を能へる小兼吉改を傾け我工ほして
彼を造り易者の謙は鐵は鋼鐵を排して造るけ謙はまとい異之を
兵業は用也ささるささるる刀刀と曰く金鋼を製表又を焼て用ひばは
叶がし猶と家よ一件の種ありん刀剣の屬ささる柄を揃り掌を
放ささるて後がれ又又を別く焼とささるおれ後患はげささる又
七本の外は飛とささるささるささるささる福成は去石雲高の地はおれけ
うば不意はしておれささるささる猶ささるの刀剣と一般は制はしそは我
師の爲は鋼鐵は鋼を合せて謙は鋼は鋼とささる鋼は鋼とささる鋼の類は後

又少しも欲換らるるなり。又わらるるも。曲るも。我は。刃鉄を。難
 今。剣を。制る者。未日。なり。は。漢。元。秘法。我家。一。流。乃。極。其。其
 一。小。と。云。下。報。匠。の家。に。何。れ。ぞ。と。知。る。は。鐵。の。刃。を。忌。中。と
 係。て。報。多。不。能。の。之。確。々。水。と。油。の。比。少。の。刃。を。九。鉄。中。より。其
 鉄。忽。ら。換。清。の。て。く。物。の。用。ま。ま。じ。我。る。を。秘。業。と。て。報。一。附。の。鐵。一
 神。と。利。と。金。鉄。を。試。し。る。泥。を。切。ぎ。某。近。く。と。思。け。鋼。と。求。め。使。り
 進。以。て。之。は。信。欽。法。解。ら。ば。未。十。八。歳。の。附。じ。う。ば
 僅。く。孫。入。挺。の。便。大。換。數。百。文。は。よ。も。と。と。教。て。出。と。論。せ。ば。五。降。を
 其。後。報。及。僅。後。と。る。と。の。元。果。と。は。元。一。年。斗。と。經。て。出。未。せ。り。兼。志。心。の
 後。は。報。陳。一。劍。師。の。誨。へ。蒙。と。は。信。信。が。来。り。を。待。て。箱。より。出。り。た。後。世
 一。柄。と。云。て。日。一。對。と。し。刀。を。小。地。鉄。緊。密。と。換。く。刃。の。際。霜。雪。乃。玉
 鑿。と。為。て。孔。と。て。る。と。く。沸。濃。に。白。い。沸。く。鉄。と。ま。龍。花。彩。と。は。一。を。

紫と。呻。る。漢。元。乃。龍。象。を。阿。の。劍。に。及。び。我。國。の。非。是。天。國。が。報
 あり。た。よ。し。け。い。は。は。と。思。ふ。斗。の。義。と。は。信。信。を。ま。た。秋。恩。と。是。地。名。の。名。地
 僕。刀。劍。の。同。利。と。勝。く。と。元。劍。元。天。白。非。の。霜。鋒。斗。と。付。る。か。懐。る。お。後。世
 以。て。坊。ら。る。き。や。兼。志。云。某。報。工。と。業。と。て。分。後。未。是。也。と。報。と。ま。る。は。元。一
 と。兼。諸。侯。家。より。報。終。り。百。金。と。云。も。何。ぞ。ほ。と。云。ん。と。は。元。莫。都。を
 弘。刀。は。也。一。て。又。貴。文。つ。ま。定。めて。中。受。ん。け。附。小。次。即。鳴。呼。と。斗。に。と。因。叙
 又。汗。を。流。居。ら。う。が。惜。く。み。て。取。を。上。我。今。心。中。慟。悔。と。云。る。も。云。は。は。信。信
 絶。つ。り。吾。家。元。來。先。祖。雨。く。の家。系。文。と。武。而。は。天。命。成。せ。り。已。が。寸。法。と
 願。じ。志。と。記。し。を。と。思。ふ。と。思。ふ。一。通。け。武。藝。を。主。其。餘。に。け。是。と。地
 ら。ん。と。思。ひ。報。多。の。報。工。と。求。る。と。の。元。果。と。心。を。幾。世。に。及。中。價。を。卑。し。て。上。作
 を。造。り。終。り。不。能。と。ま。る。兼。志。の。中。條。に。は。は。元。余。と。云。報。の。利。業。と。制。を
 却。終。り。た。な。が。後。と。報。百。文。の。物。と。云。い。是。秘。と。也。と。論。せ。り。其。某。が。誤。と。

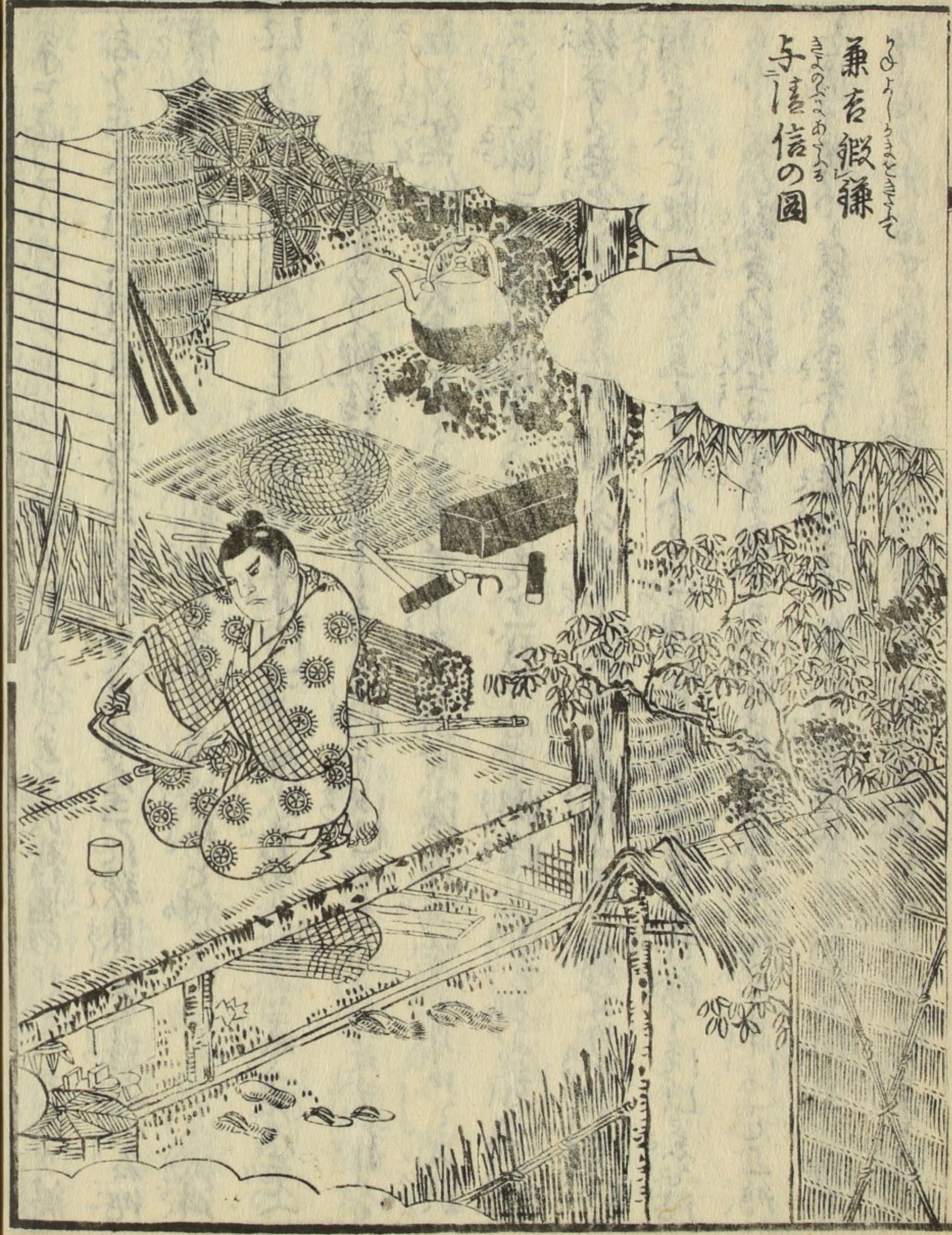
書三紀幼編卷二

二十



信の園

信



兼吉鍛錬
子信の園

信の園

信

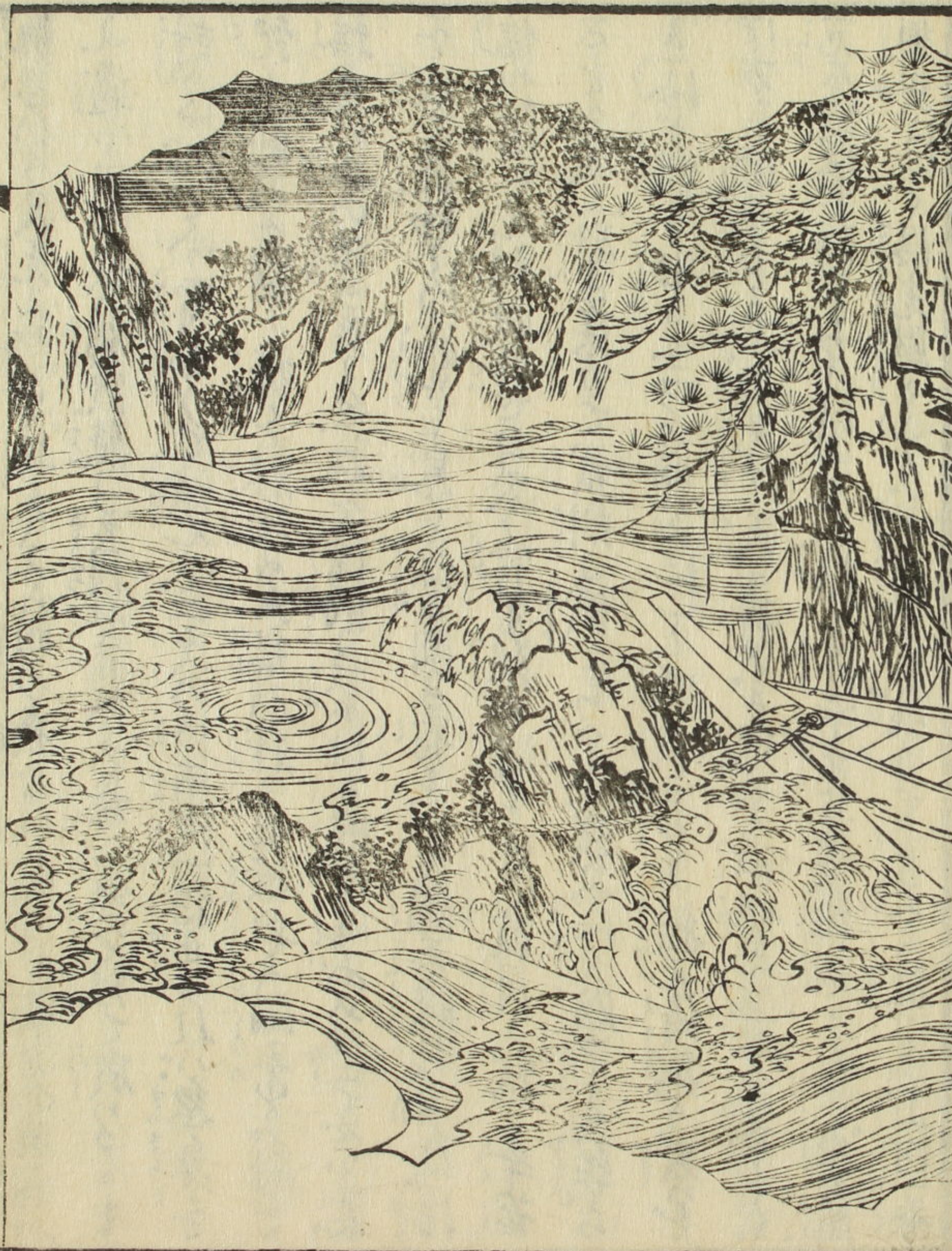
今日出来ぬて一たび見るとけ他の見物なりぬとてはてふ言とてせど
 無愛心は徹く法帯とてた多困れ病いふせんどし「あつて廿五文の積と
 僕も積りけ付た者なき中事以て先明日三黄文の積と進らせ其餘は
 月くは携り来り。真敷のどく収じしげゆけりた納め給りてせくは
 まて大恩を忘るまじし。とてた多積とて兼略乃誤りと附し度と推下り述る
 うそ。実情言ひたれし。兼略言くと笑ひ申す。其の意は「唯今一柄
 又黄文とやせし。悉く虚かり。其の三而文宛之明日必其價と送り給
 と酒と出く郷應酒はさるりて兼者三十文斗の積をた出。盛れと
 又積並件の積をたて試とて斬て兩行とて。又龜の甲十又枚を擧て切
 拾し紙を裁りて安らうとて。又少しも純じ。一点と欵換らるり。とて
 積心を擧し。うす布と用る小危うなるを。知しんが。也。信又柄の積と
 て。其の三日は三黄文の積と應ると。いふも。事。黄文百文を。と。余

更よまは。是は。信。強て。送。は。彼。側。隱。の。君。は。は。て。既。は。已。が。數
 困なるを。際。玉。袋。計。の。多。き。し。の。と。各。げ。の。な。く。危。丁。削。刀。は。便。に
 是。が。知。ぬ。金。と。泥。土。の。中。は。抛。が。た。振。舞。中。く。凡。夫。の。不。為。は。た。は
 と。是。より。大。き。小。き。教。し。つ。と。な。く。親。と。賤。び。也。不。同。雨。の。用。を。訪。ひ。其。後。中
 風。の。病。は。例。と。する。附。も。日。に。来。り。兼。湯。心。を。用。ひ。且。姉。妹。の。幼。女。と。言
 我。附。の。食。の。長。き。を。見。續。然。と。叙。婦。の。ど。く。に。是。り。多。く。然。は。阿。古。が。妖。怪。又
 捕。と。う。り。と。い。ふ。う。り。も。美。也。又。馳。来。り。兼。者。を。み。が。長。と。欵。と。懸。り。不。病。阿
 古。と。た。又。強。き。る。漁。ま。を。呼。よ。せ。其。後。の。模。倣。を。こ。ま。ば。弘。羅。ふ。ん。で。終。り
 將。て。ヤ。多。い。今。物。語。り。の。ど。く。疾。風。暴。雨。起。り。す。り。と。是。附。の。造。化。の。功。と
 自在。と。する。碎。物。又。陰。火。燃。出。り。と。是。附。の。鱗。蛇。の。屬。と。是。り。二。口。の。積。と。見
 下。の。り。の。い。般。ふ。ら。い。彼。者。が。雨。の。眼。を。は。し。一。は。人。を。看。せ。れ。物。も。凡。其。全。神
 の。量。の。何。程。か。計。が。け。は。是。必。ず。歳。の。功。を。積。る。妖。物。は。多。き。了。好。根

のこ耐よたて阿な信懸懸鬼津のあまありた其俣はじ(玉潤)遠
又打殺と女が靈を慰め老人今子の結服を贈ると座をまんとするを
兼吉恥りしく止め其芳志軟ふ堪らざるに彼も變化自在の物
て風雲を心の俣又既ふと夢く確は下彼も怒りたる勇力あてすく
屠殺ふれせよ彼毒氣も福治りん必定之若由又不思議の禍ひ何んを
ふれ可也我も今月どおひ老母の悔と悲と結んをばいふせ必懸怒
又彼石に流き流るるれ行りも右業の流らじむる不也我も死
又天命と流を流し流るる信信も憐りと流るる神よりとははれら
ともめ仰よ改の胸を極て撥る道とらげら凡晴其日終日定
又在て又子を慰め暮よびんと悔りする

懐義顧恩信斬妖婦條

又懐義又入く後日未も練したる又挺の孫と推の腰よは大隅控久國が
作り三尺七寸の古刀を帯只一人漁船も乗る。稲葉山山の藤葉若潭益を
懸く急流を物の屑たせ凡阿古がさびる地もあ。松を巖わたせ妖婦
出来ぬ冷や迷くと神水を飲で結うけたる大膽の種を畏しきこれ神
童の妖物も勇氣無双の士は怒まをる妖物中へ信風穂吹方去
くと明らんとせれも又奇睡もなうしふそく曉天を揮とく立降る
乞よう妖毎又いと何れとつと小蛇一ツも怪きあり月日遮ら妖の
往来夜を思ぬる心(曾て人の信)これ知るべしあ妖既又七月
るに八月と而も月移りていある夜もなれも妖婦を替るれ又己
が勇氣も恐怖とて執物もせざるうと十月斗が間に行ははじ又初ざり
たる湖の中秋十八日其日名ふあ月を疑ふ夜増るれと造化の天の心
よて空の向より一天かきまき善方より雨條を接る斗源頻か加後信



三ノ山より
信長を
よきとせし
何故懐の國



熟思ひくるい先よ阿むが挿とる雨の夜なり。我三十余日の間何ん
と適く雨の夜は初夜。殊よを月以來兩天稀雨を待て成りては
計どいど今宵あつて試ん。二更の月雨少し。猶止るれば忽身を
死し。劍の久固と襟を腰向ふ。又緒ひ纏く。と浪松は踊る。附を
移さば毎の地よ是よせ。松を湾洞は繋げる。附を時止めて。衣
を脱て衣物よは。暫く息と休る。向ふ看とく。暈天は晴る。は。法
信独言し。く。初夜晴せば。今宵も秋の。いとは。は。幾月も我は幸甚
と。と。遠よ。夜よ。来りて。我劍よ。試らる。我又。汝が。腹中よ。蘇ら
と。汝が。飢を。助る。二つの。向い。出は。と。喃くと。言り。能よ。倚。思ひ
に。方。を。眺。見。と。る。小。月。光。中。天。よ。掛。と。る。う。眼。盤。を。磨。き。き。
一。石。本。の。白。雲。錦。を。ら。う。は。び。と。く。風。よ。涼。し。て。花。ま。る。細。細。と。玉。毫。と。圍
須臾はし。と。法。光。勝。く。う。り。玉。毫。雲。を。破。り。て。天。よ。旋。り。出。山。河。一。砂

よ。法。く。あり。雲。よ。芝。を。圍。まん。と。法。光。雲。を。おん。と。其。秋。水面。よ。落
て。み。條。の。激。流。よ。万。輪。の。月。あり。南。北。よ。は。山。道。の。雨。の。後。涼。風。青。よ。微。り
て。冷。く。なる。よ。雁。の。着。る。く。鳴。は。目。は。獨。耳。よ。は。りの。都。て。感。情。起。ら
ば。と。云。ふ。う。く。三。笠。山。の。右。祇。藏。眉。山。の。唐。詩。ま。ど。思。ひ。出。り。き。物。表。し。き
わ。こ。そ。あ。き。城。中。の。蕭。の。着。道。よ。は。へ。き。う。ぬ。曲。を。吹。出。せ。り。此。い。け。石。の。上
を。水。の。手。れ。尾。崎。と。名。付。長。柄。川。の。漁。夫。を。眼。下。よ。見。ゆ。う。風。系。の。地。よ
道。三。入。乃。雅。菴。を。造。り。房。の。亭。よ。今。宵。月。を。就。ぶ。宴。會。起。り。今日
浪。華。に。天。王。寺。の。樂。人。東。儀。因。懐。守。り。来。り。城。中。樂。と。就。ぶ。りの。ま。く
今。石。秋。樂。れ。曲。を。う。た。へ。道。三。入。道。よ。又。歌。る。き。操。笛。の。よ。ま。り。て。瑤。洞。と
鳳。鳴。よ。比。へ。く。吹。と。と。め。乃。雅。韻。同。は。傳。り。き。林。本。を。動。く。笑。が。く。く。悲。し。む。が
ど。く。成。造。の。壯。士。故。郷。を。憶。ひ。原。田。の。嬌。婦。ま。と。慕。ひ。勝。を。斷。り。と。あ。や
ま。こ。と。張。落。る。心。を。忙。然。と。して。多。る。が。ど。く。名。琴。の。曲。よ。魂。魄。と。奪。は。し

若くは妖怪の形なるもの一たび殆ど忘るに能はざるを疑はし候は
 雷の怒兵兵と死を履入るる不思議にも大膽なる。物御の睡眠
 うき間うらたなく又美れどく腰に帯する久國の刀凍らたる怒と後
 鞘を別して抜出ると差しうはこいふ止んと眼を用けば腰刀脱
 七八寸程を抜せんとは扱ひ麻者ごさんかれと精心一身に懐とらうと
 扱へまよれが怒ら氷のどくをさるる一條の毒気竹をたたく面よ吹
 末の腫を定めて眩と見らふ信信が政の上る岩壁より政と止し只
 一帯しを聞き伺ふのあり其はさうう其れどく紅の舌大連の
 色はし鏡と鏡とるごとく死面の眼月を輝き吹息者のどくはして奥
 り限りなく扱ひ美道は憐れとも毒龍た物のあいら分らうと長
 幸長山の動き出する小異らう今信信が面よ吹つけたる祟り
 息とさしどく大膽不款の豪傑心膽大さ小聞き扱ひ阿む言を頼

どのの只今なりと。精は日來より陪へ大書想をあげ教日汝と信
 むふ其甲斐あり恨の一刀まんけ通りとさるる縁と向く確切
 其を刀用き張るるの下のり腮をうけて切先海く切込ごう。通夜自在
 の僻者より大の毒刃傷られ須臾も堪ららば。裸身を踏とてあ
 中へ墜入る。尾は際纏るる岩壁の老松がうくとつて引れ岸を
 衝て落ちる勢いよ岸の巨石水中へ崩れ入れ其甚危き地よあらう。
 信信が渾や強うらん又佛林の加護やはしくらん本石躰折れとあま
 とさうう道は危かりしりたへ藤音水中よ身を翻し跳り旋り
 水気を巻き尚呑んや思ひらん吐息煙のどくは喘ぎ口を用き進
 来る其勢いよ狭地の龍王阿修羅を助けに己が身をめてに大海の湖を
 飲思ふ天は憐れ。帝釈宮を没んとせしむやと光(怒り)け河陰雲
 に方よ起る。月の光朦朧として闇とつた眼の光巖下れ電光よ光し

三浦のびやう
信次中
屠鯨魚の圖



清正記幼篇卷一

九七



清正記幼篇卷一

九七

多し信をのめし日來又修磨し多る入挺乃飛鎌両眼と打
候。政の面に悉く刃を吞で打込妖怪今の河水の働き自在と
どし弱ると見へる。其下より腹を捲き拳し徹き刺黄き。又
水面に遊ぎ出で、尻と云う尻尾と、尻端と切沈て、又深く突刺
る。凡二十余ヶ所、小凄き碎物も、寸記を喰ひ終り、又深く遊ん
どる。尚苦心を劬す。又斬り、小疾の朗と、明に、南の民
遙くこれを見付、演又仕民の御衆を獲り、又棒を刺し、舩又あり
あを遊ぎ、附のり、小地集る者、雲霞乃懸く、とく、綿糸と、は、け、由
か、ま、ち、く、は、仕、使、客、退、り、又、近、付、り、信、信、既、又、妖、怪、を、屠、殺、し、
刀を収め、鎌を食く、後、又、皆、く、舩、は、休、息、と、る、間、又、凡、物、れ、諸、人、等、
又、称、歎、せ、ば、と、も、の、ち、く、先、より、英、勇、の、名、一、國、を、東、次、き、る、豪、性、の

徳良殺十人、纏を聚め、彼、碎、物、が、解、散、し、打、り、け、衆、刀、を、一、つ、り、南、の
川、原、に、引、と、げ、子、細、く、其、形、状、を、見、る、小、金、針、ま、ま、な、る、中、は、紫、井、を、
帯、取、の、白、く、帳、幕、乃、ど、く、に、懸、列、り、背、の、は、る、ま、じ、て、牛、乳、滑、草、乃、ど、く、
に、是、あ、り、様、の、も、の、ほ、く、取、り、尾、は、あ、り、て、六、丈、余、圍、り、是、は、誰、に、
と、く、稻、葉、山、乃、燃、る、森、夜、山、城、守、入、道、速、く、醫、官、を、令、し、て、心、じ、い、諸
の、醫、家、等、書、を、懸、し、こ、れ、締、魚、を、り、和、名、を、令、け、と、中、は、小、ち、る、物、を
信、小、山、椒、魚、と、い、青、溪、は、生、じ、大、なる、物、八、尺、斗、と、い、ふ、斯、大、像、なる
もの、あ、り、と、は、赤、き、り、及、び、る、の、と、ち、り、

舞、の、人、を、え、り、終、し、と、せ、ば、昔、雲、州、富、田、川、の、水、と、天、の、淵、と、の、あ、れ、大
なる、舞、臺、あ、り、川、邊、は、遠、出、往、來、人、を、食、ひ、り、殺、ち、り、以、往、還、結、と、
終、り、ん、と、い、は、る、半、と、彈、心、思、ひ、系、と、い、ふ、者、あ、り、け、し、申、分、は、い、る、る、要、求
なり、其、争、う、人、力、は、及、ぶ、べき、我、れ、を、斬、り、て、往、來、の、答、を、殺、ん、と、申、曹

龍山と名もたれ、身を圓め、手代のち力ニツを接て、水とえ、持の
狭川より流るるがごとく、舟と遊き、舟に彼鱗魚巨口、呀、就と張、固
夕、終るる、半とが、後とまる、瓜一、吾と、吾、込、う、け、耐、甲、胃、魚、の、腮、
係り、吾、め、ども、吾、も、は、吐、け、た、も、れ、ど、其、苦、も、又、堪、み、う、ん、水、中、より
踊り、より、川、系、一、町、斗、と、這、め、ぐ、う、る、瓜、半、と、刀、を、な、て、口、中、す、く、に、切
て、殺、し、あり、も、より、人、せ、と、を、ま、る、く、て、鱗、工、と、い、ひ、多、くと、又、扱、れ
を、中、草、よ、い、は、い、鱗、魚、一、名、を、人、魚、と、い、ひ、又、孩、兒、魚、と、い、ふ、荊、州
監、胆、の、青、溪、に、あり、に、足、あり、其、鱗、小、兒、の、啼、が、く、故、又、孩、回、魚、と
呼、ぶ、膏、を、え、て、燈、火、よ、用、白、の、耐、耗、く、消、す、は、昔、秦、始、皇、崩
御、り、り、て、陵、を、躑、山、よ、築、き、塚、の、下、よ、宮、殿、を、造、り、又、宮、女、の、よ、ま、き
もの、又、百、人、と、殉、葬、し、人、魚、の、膏、を、と、て、燈、火、と、し、殿、内、よ、あり、殺
年、を、歴、て、楚、王、項、羽、と、の、陵、を、掘、き、る、耐、燈、火、を、消、ど、と、う、や、い、り
人、魚、の、膏、と、い、ひ、鱗、魚、の、く、り、り、と、あり、又、鱗、魚、三、種、あり、其、一、種、は

湖の中よせい、秋よ鮒よ似く、後の下乃鮒、是よ似く、う、喉、變、小、兒、け、
と、今、道、に、湖、あり、の、中、に、も、こ、れ、あり、一、種、は、溪、洞、の、内、よ、せい、こ、れ、を、鮒、魚、
と、名、く、秋、狀、鮒、と、似、く、に、足、あり、林、樹、よ、う、好、で、瓜、椒、の、本、の、皮、を、食、
後、又、信、又、山、椒、魚、と、唱、ふ、其、鱗、小、兒、の、啼、が、く、大、き、う、物、七、八、尺、其、
性、巧、あり、て、若、世、と、早、と、う、耐、は、よ、水、を、含、め、と、よ、の、あり、身、を、其、最、乃
中、或、い、本、の、葉、け、り、に、張、く、口、を、用、き、水、の、其、葉、の、中、よ、踏、は、し、て、
く、歎、き、る、の、あり、濁、して、ま、り、飲、を、持、若、ま、り、い、て、其、後、水、と
飲、ん、と、と、耐、忽、こ、れ、を、吸、う、て、食、ふ、と、え、我、ら、が、湖、よ、居、る、を、鱗、
と、い、ひ、山、溪、よ、居、る、もの、を、鮒、と、い、ひ、り、何、物、ある、ふ、う、り、よ、あり、と
も、湖、よ、何、の、瓜、も、通、り、て、鱗、の、子、を、用、ひ、鮒、の、小、ち、う、る、瓜、山、椒、魚、
と、名、つ、け、た、と、あり、り、の、を、は、ん、さ、け、と、い、ふ、う、る、ぐ、く、山、椒、魚、の、く

震勇齋名法信所撰士條

既に加藤小次郎信忠が女を娶りて後、子嗣の妖物を斬り、
より勇名源とあり、兼吉親子が歎ひ限らば、及び山城守入道と斯
る高僧の眼をいりし、子を却りしり、此悔しきよと急ぎ城に
るは褒賞を賜ふ。其後信忠を石抱へり、三十貫今の三百石ありの福をそ
賜り、けつ天文二年癸巳九月信忠二十歳なり

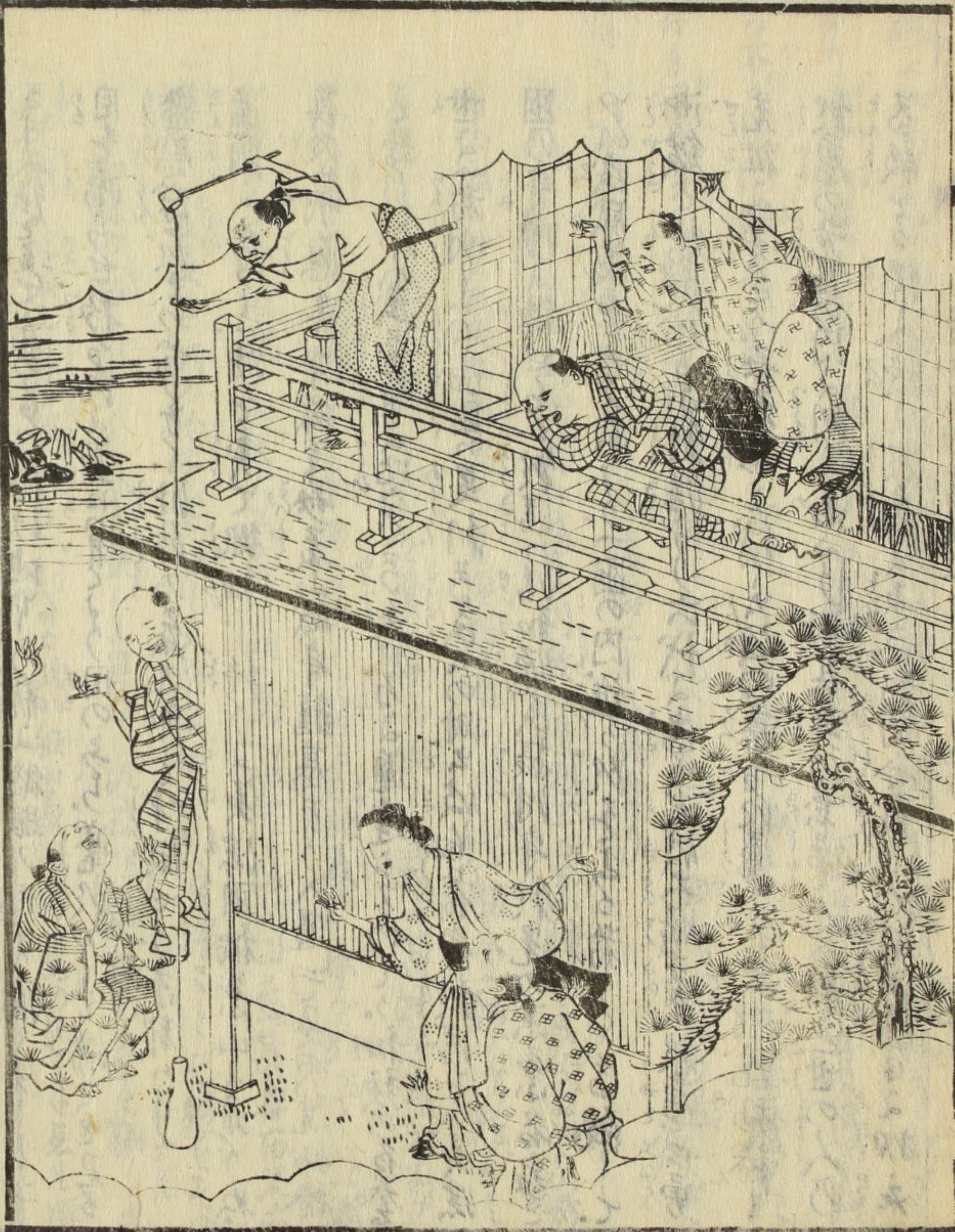
抑論、系山乃成、及び山城守利政入道乃三が素性を忍ぶ、及び山城
國西園といふ不れた民なり、生質勇氣あり、才智人なれり、然るを
其て、いふ其甚、いふ、沖を賣て世の役とし、威は其沖を去る、其の
井の角より、漏瀝して壺中へ傾く、容る小沖長く糸を引く、一漏
り、繩より針を渡さば、三尺八尺の間の文、壺を地とよ、並其身百尺の
樓とよ、長き柄の杓をひて、汲く入る、沖を引く、繩として、終る、その
こま蜘蛛の糸を羅りて、凡は塵と異なり、此は後、鶴の糸を懸る、
尺此、柄をたぐふ、勢、勢とし、引く、沖の細く、長頭の鬘のいと、寸、寸も、儒
さす、又、錢をまて、たのむ、掲げ、地中の繩を、鶴眼の目より、漏り、流し、とて
目を潜らせ、扱ひ、たぐふ、壺のいと、より、目のうち、毫、吹か、くも、濡さ、と、んる
者、感心せ、ば、と、ち、ち、ち、沖の、底、九、郎、と、呼、傲、せ、り、系、都、い、り、り、り
遠國とある、と、沖を、賣、て、細、細、と、終、り、又、後、徳、園、稱、系、山、と、ま、り、ぬ
其、以、り、明、應、年、中、城、を、及び、山城、守、龍、基、を、り、入、道、と、是、明、院、妙、椿
と、稱、ひ、げ、人、武、勇、世、は、比、る、く、ち、矣、た、る、と、通、達、と、る、の、と、ち、和、歌、の、名、譽
世、と、著、明、り、而、由、國、り、是、利、を、氏、の、附、と、は、後、伯、耆、守、於、信、と、は、後、徳
園、乃、守、護、を、補、せ、ら、る、和、信、は、信、和、源、氏、撰、傳、守、於、先、の、業、系、名、を、及、び
つ、い、武、威、嚴、を、た、る、ふ、より、一、國、の、内、推、り、次、を、よ、る、若、く、は、敵、と、て
沖、彼、と、稱、ひ、た、る、不、和、信、より、六、代、は、出、り、去、は、大、膳、を、及、び、龍、武、勇
先、祖、と、考、え、り、及、後、家、と、代、り、去、は、の、幕、り、の、屬、し、是、明、院、妙、椿、と、
和、信、の、老、臣、の、内、より、別、り、居、り、り、其、身、の、業、系、人、の、勝、と、世、の、人、乃
を、敵、と、る、後、と、稱、ひ、た、る、和、信、より、及、び、叔、回、合、戦、と、て、飲、地、大、は、り、切、え

書正記幼篇卷一
三十一

まつぎ
松並
存九郎
あぶら
油井の
図



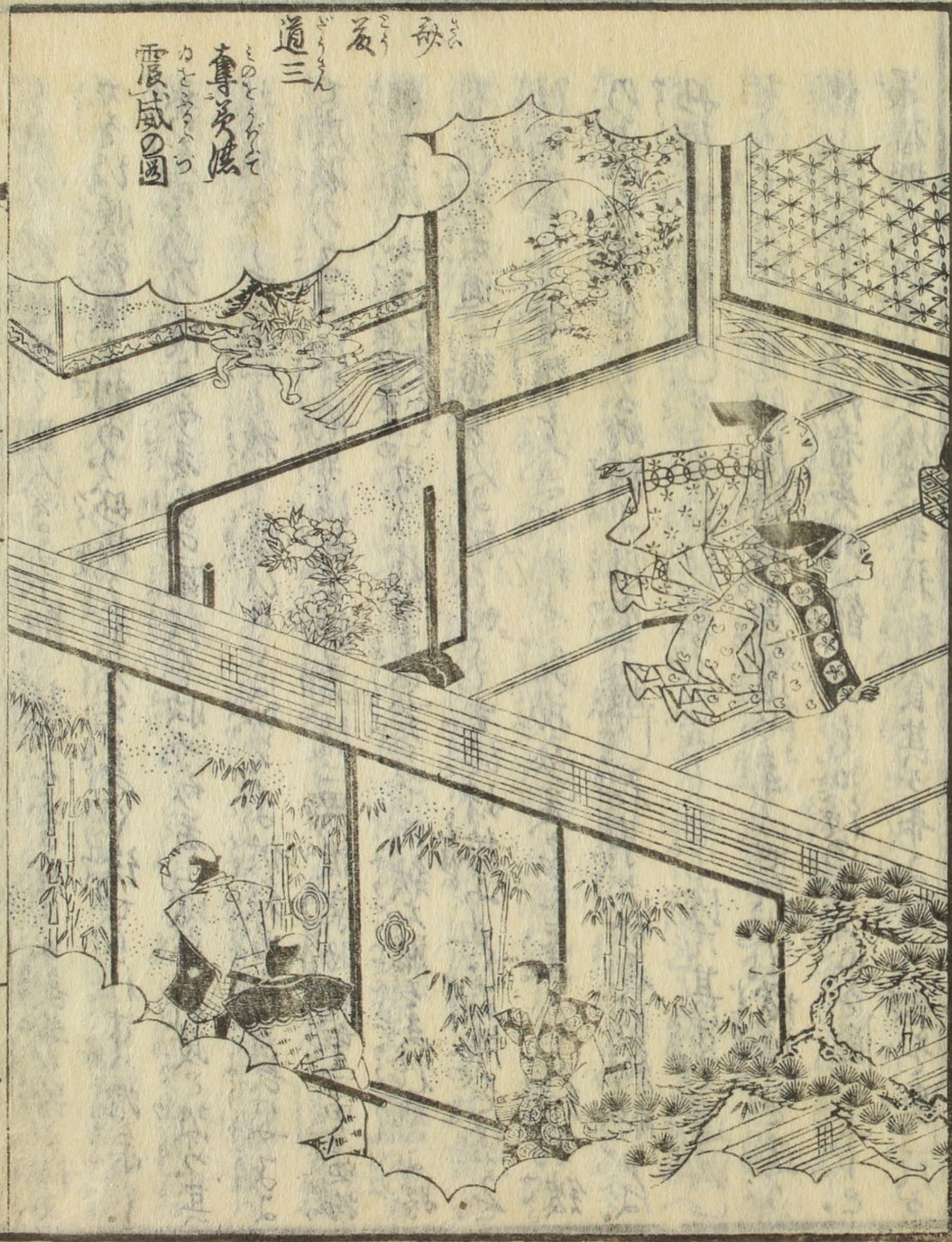
清正肥効篇卷一



清正肥効篇卷一

橋系らに城郭を築き威を隣國に震ひ人の懐懐る傳りし
 橋系日く又還しく城の中は兵備を公置し國より一處は運達
 ある者と交時するき中専ら風流を好む。左九郎と妙椿が初出
 種く子孫公置しする小妙椿渠が其乃又妙あるを賞覧し。是を
 側又放たば道長等これを見く。我主人の行なうる様き者と傳
 終ふ。此と信者行ぞ軍門の用は立るやなど。さきづに清と
 致し流る若くまうきされど致て耳にかければ静又渠を塵埃
 せ國にこれ信或は山川の遊易又其國の人物を向ふ。一々言る
 不。要害の得失大將の強弱諸士馬の勝劣まで。詳論する石の
 理皆的處せむとるは。妙椿悦法法。さればこそ我見又遠い
 どけ者才を風色べき不あり。其後武術を試る又弓の長中が面
 歩れ外は揚系と穿たる。妙ひ而後而中的のま思を外さば。雲漢の
 傳雁弦の第きへに從つて射て落し。樹梢の猿猴を突しむるの如

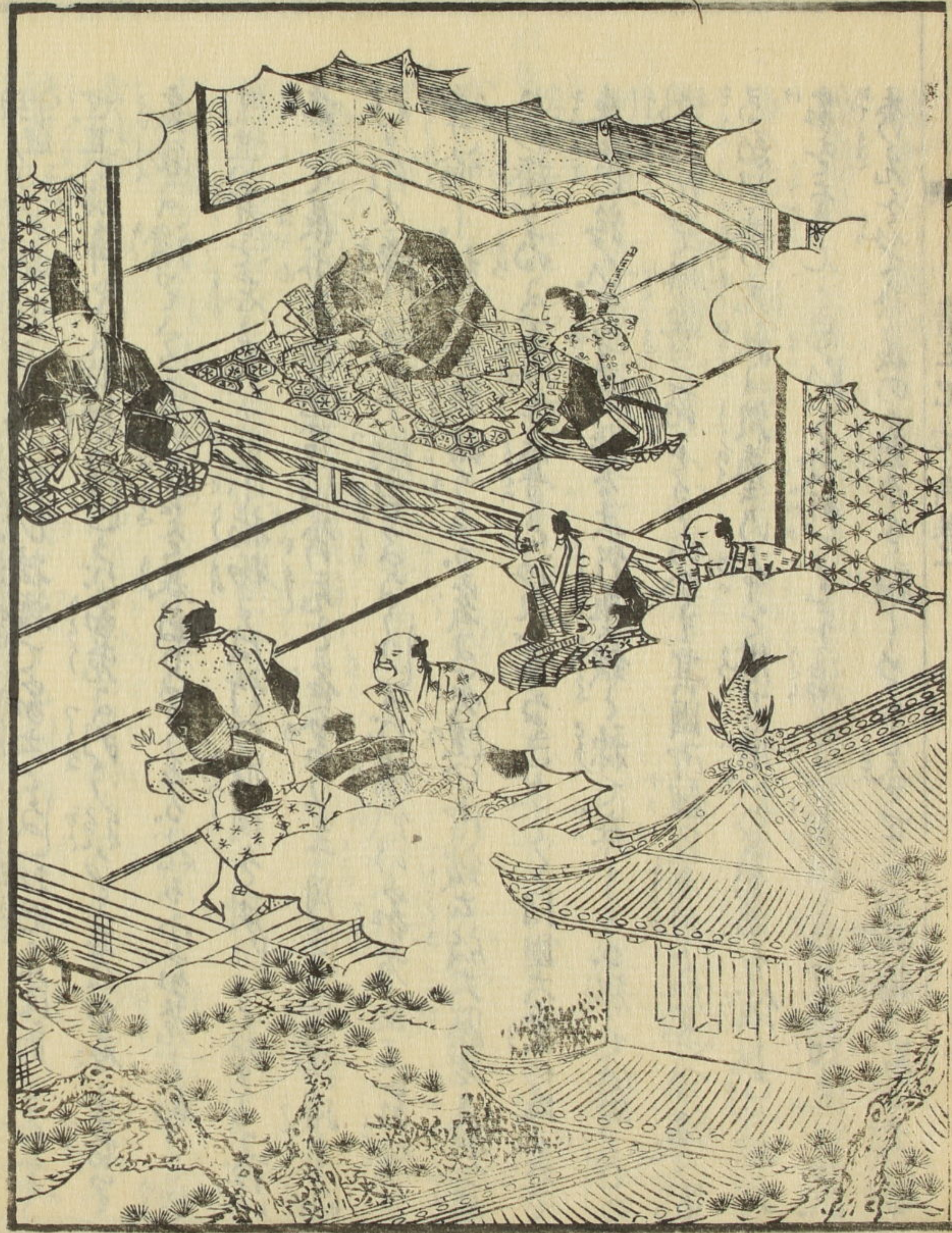
腹の妙椿斜る。此致は。技擢て家士とは。松波左九郎と名あり
 世其後年く又戦功ありし。家老より別し。終る。第一の座は若し
 美物又識りたる者は皆を巻ぬらう。然る小家老とあり。後
 其其本と忘る。小指物は竹の陣筒を用ひ。となり。又改
 名して長舟を即左衛門秀元と名あり。年月立て後妙椿を福
 により。卒。家を嗣男ありし。一。藩代乃家老互。家老を
 卒論し。終り合戦始りたる。爰は又徳の南殿去。放。大膳をま。其
 い妙椿が。あ。不。飲。を。奪。と。何。れ。ん。と。さ。き。づ。に。日。國。大。衆。の。城。に。在。て
 卒。法。し。終。ひ。其。つ。又。大。膳。を。ま。其。後。被。と。稱。て。在。く。る。都。て。い。時。まで。の
 風。信。し。て。聲。を。零。落。と。る。と。つ。ふ。其。國。中。殿。の。系。目。と。な。り。つ。満。入。信
 其。敵。は。秀。元。私。に。其。藝。乃。命。と。傳。て。藩。代。の。家。老。を。伏。し。己。が。其。後
 家を奪んと思し。うは致てを。信。入。一。義。に。及。り。氏。目。法。し。終。ひ。
 秀。元。を。ひ。て。其。後。の。家。系。を。嗣。り。ゆ。よ。と。令。せ。ら。る。妙。椿。が。家。士。に。命



敵 友 道三
 このとらへて
 奪つた法
 かてみへつ
 震威の國

諸王記幼童巻一

三十三



諸王記幼童巻一

を用ひて於癸姫と國人等と下知し援兵を出させらる。長年が兵これに
 力を以て懐我頻と利あり。妙椿が家老多き多く誅せられしに、
 其の元思ひの傳はみ後家の不飲を収め。後山守利政と改り。其
 後三権後して道三と稱し。勢ひ日く加り。子依頼長あり。長は女子
 て庶族の子。其次は嫡男活部を嫡義龍。二男推樂助龍重。三男重
 龍。定次は女子。後信長との。尤も小長女を以て所被大膳を以て。嫁
 せし。元末道三智勇人又妬り。生は奸佞あり。石佛を造らせ。
 活部磨を以て。雀躍と云き巧辨也。其後後家を奪んと。計り。彼
 の下知を憐れんと。頻と於癸姫と。若某が後家と。嗣は
 妙椿が世に奪えし。先君は地悉く。還し。其後其才と還附し
 たり。王と吹き。龍肝鳳膽の美に進め。糸と。世に。城樓を造り
 營と。九鼎を連ひ。政者美酒は飽し。なる。後心の心を。中へり。
 氣樓那。舍利華が。古狐板。宰我。鄰食其が。希と。傲ひ。吾を。隨たる

言語の美と。誰心の勢と。人於癸姫。其の人と。いふ。忍るとして。後
 座と。國人と。下知を傳へ。道三を。援け。依之。安後。稱系。氏家。竹。頼。ひ。と
 き。國人も。皆。援兵と。出。軍。威。大。振。ひ。妙。椿。が。家。士。三。五。の。隙。且。後。續
 を。三。道。三。終。と。秘。後。家。孤。横。飲。と。る。小。玉。と。り。突。ハ。張。と。く。歌。と。び。と。く
 左。偏。と。於。癸。姫。の。力。と。事。不。也。道。三。秘。後。家。を。奪。ひ。て。後。已。が。長。女。と。以。て
 於。癸。姫。が。方。は。嫁。せ。し。也。初。の。言。と。大。と。遠。ひ。政。勝。美。酒。は。交。り。後。後。家。の
 崩。り。を。秘。後。の。後。を。三。道。三。の。地。を。も。送。と。び。叔。は。は。法。師。と。云。言。ひ
 誘。され。し。と。後。悔。胸。を。嚙。と。つ。道。三。は。子。依。頼。多。く。兵。勢。大。と。震。ひ。し
 也。ゆ。ゆ。に。勝。り。と。清。む。る。と。後。の。胸。を。と。り。糸。月。を。送。り。且。後。後
 眼。次。才。と。因。り。享。稱。に。奉。れ。し。月。より。思。ひ。く。よ。去。後。家。舊。恩。の。遺。哉。い
 國人の獨竊と。道三を。奪。と。計。策。を。ぞ。と。り。され。多。奴。子。門。を。以。て。惡
 多。ま。里。中。の。世。の。後。の。と。く。懐。む。と。は。と。れ。た。後。と。云。け。は。輪。臺。山。に。使
 下。如。小。の。け。に。あ。り。後。速。と。後。の。遺。を。除。く。道。三。自。り。大。業。不。向。ふ

